大阪府就労ニーズ調査
～野宿生活者聞き取り調査より～

大阪市立大学文学部社会学研究室

2001 年 3 月

目次

第 I 部　調査の目的と概要 1

第 1 章　野宿生活者調査の目的と概要 3

1.1　調査の位置づけと目的 3
1.2　調査概要 4

第 II 部　基本データ 5

第 2 章　属性 7

2.1　年齢・性別 7
2.2　出身地 7
2.3　住民票 8
2.4　直前居住地 8
2.5　野宿形態 9
2.6　野宿開始時期 11

第 3 章　職歴 12

3.1　全体の傾向 12
3.2　事例 14

第 III 部　生活実態 21

第 4 章　生活実態 23

4.1　現在の仕事の有無 23
4.2　仕事内容と収入 23
4.3　仕事をしない（できない）理由 26

第 5 章　求職活動 28

5.1　求職活動の有無 28
5.2　求職活動をしない（できない）理由 28
5.3　求職活動の手段 30

第 IV 部　就労ニーズ 33

第 6 章　就労ニーズ 35

6.1　希望の仕事 35
6.2　他の仕事には 38

6.3 行政にのぞむこと 38
6.4 年金 42
6.5 企業にのぞむこと 42
6.6 農山村への移住 44
6.7 就労自立のために〜なぜ仕事につけないと思いますか〜 46

第Ⅴ部　資料編 49

聞き取り調査調査票 51

Case **番号と属性** 57

第 I 部

調査の目的と概要

第１章

野宿生活者調査の目的と概要

1.1　調査の位置づけと目的

近年さまざまな事情で野宿生活を余儀なくされている人々が日本の都市部を中心とし増加してきている。この傾向は大阪府下（特に大阪市）においても例外ではない。平成 10 年度に実施した大阪市における概数・概況調査によればその数は 8,660 人に及んでいる。加えて、厚生省が把握した実態調査によれば、この増加傾向は大都市部に限られた現象ではなく、大都市周辺部や地方都市へも広がってきている。なお、2000 年 10 月 1 日の国勢調査に基づく野宿者（ホームレス）の概数が一部発表されている。それによると、東京 23 区＝約 4000 人、横浜市＝ 499 人、川崎市＝ 1043 人、名古屋市＝ 1175 人、大阪府下では 7051 人（大阪市＝ 6413 人、堺市=188 人、豊中市=118 人、八尾市=77 人、東大阪市=43 人）、京都市＝ 460 人となっている。

大阪市では、こうした状況に鑑み、この問題に関して全庁的な取り組みにむけて、平成 10 年 5 月に「大阪市野宿生活者問題検討連絡会」を設置し、大阪市立大学にこの問題に関する総合的な学術調査を委託することとなった。一方、この問題に関する抜本的な対策を講じるためには一地方自治体の取り組みを越える問題を含んでおり、大阪市では国に対して法整備をはじめとするさまざまな要望を行ってきた。平成 10 年 11 月には磯村市長から小渕首相（当時）に野宿生活者問題についての国の取り組みを要望したことがきっかけとなり、平成 11 年 2 月に関係省庁と本市を含む関係地方自治体で構成する「ホームレス問題連絡会議」が設置され、同年 5 月に「ホームレス問題に対する当面の対応策について」を取りまとめた。

大阪市では、これを受けて、大阪市における野宿生活者対策を総合的に推進するために、「大阪市野宿生活者問題検討連絡会」を廃止し、平成 11 年 7 月 1 日、磯村市長を本部長とする「大阪市野宿生活者対策推進本部」を設置し、大阪市立大学に対しても平成 10 年度に引き続いて総合的な実態調査研究を委託することとなった。この一連の調査[注1]結果が、2001 年 1 月「野宿生活者（ホームレス）に関する総合的調査研究報告書」として報告されている。

このような大阪市の状況を受け、大阪府商工労働部雇用推進室企画課と大阪府健康福祉部社会援護課が、それぞれ、大阪府下の野宿生活者を対象に就労による自立支援策のために、また、生活実態を把握するために、*NPO* **釜ヶ崎**と大阪府立大学社会福祉学部に調査を委託した。

本報告書は、大阪府商工労働部雇用推進室企画課から委託された、就労ニーズを中心とした聞き取り調査の結果をまとめたものである。

注1 平成 10 年度から平成 11 年度にかけて実施した調査は「平成 10 年度　大阪市内における野宿生活者（ホームレス）の概数・概況調査」、「平成 10 年度　野宿生活者問題に関する市民意識調査」、「平成 10 年度　臨時宿泊所利用者聞き取り調査」、「平成 11 年度　野宿生活者（ホームレス）聞き取り調査」、「平成 11 年度　大阪市内観光施設におけるヴィジター調査」である。

1.2　調査概要

日程　2 月中旬から 3 月中旬にかけての 15 日間（表 1.1 参照）

調査員　大阪市立大学文学部の教員（島和博）を中心に院生・学生の協力を得て実施

調査方法　簡単な調査フォーム（調査票）を用意し、それに基づき自由会話（面接方式）で行った。調査協力者の基本属性、野宿生活の実態、就労ニーズなどを中心に聞き取りをおこない、あわせて、調査票から就労ニーズに関する部分だけを抜き出したアンケート用紙を、調査協力者自身に記入してもらう方法を用いた。そして全部で 50 人の野宿生活者から話を聞くことができた。調査を行った場所については表 1.2 を参照されたい。

調査日	市・シェルター	票数
2 月 15 日	大阪市	1
2 月 17 日	大阪市	1
2 月 18 日	大阪市	3
2 月 19 日	大阪市	2
2 月 20 日	堺市	3
2 月 22 日	大阪市	2
2 月 24 日	大阪市	4
2 月 27 日	大阪市	9
3 月 3 日	大阪市	6
3 月 6 日	堺市	2
3 月 11 日	シェルター	5
3 月 14 日	豊中市	3
3 月 15 日	シェルター	3
3 月 16 日	シェルター	2
3 月 19 日	八尾市	4

表 1.1: 調査日程

市・シェルター	調査場所
大阪市	扇町公園
	JR 大阪駅周辺
	大阪城公園
	道具屋筋
	日本橋
	天王寺地下
	長居公園
	浅香中央公園
堺市	大泉緑地
	大仙公園
豊中市	服部緑地
八尾市	久宝寺緑地
シェルター	あいりん夜間臨時緊急避難所
	長居仮設一時避難所

表 1.2: 調査場所

ここで、本報告書について断っておかねばならないことが二つある。

まず一つ目は、今回の調査は質的調査であるが、本報告書では、全体の傾向を示すために数値データを用い、図や表を作成している部分があるということである。これは、あくまで今回聞き取りに協力してくれた野宿生活者の傾向を示すために用いたのであり、言うまでもないことだが、大阪府下で野宿生活を余儀なくされている人々、さらには、日本全国で野宿生活を余儀なくされている人たちの傾向を示しているわけではなないということである。

二つ目は、具体的な事例を紹介する際、基本的には聞き取りメモをそのまま引用しているのだが、部分的ではあるが、整理して再構成をしている部分があるということである。

以上二点を付け加えさせて頂く。

第Ⅱ部

基本データ

第 2 章

属性

2.1　年齢・性別

今回聞き取りに協力してくれた人々は、35 歳から 69 歳までと広範にわたっている。平均年齢 56.5 歳で[注1]、図 2.1 からも明らかなように、50 歳代から 60 歳代の占める割合が高くなっている。そして、1999 年度大阪市が実施した野宿生活者（ホームレス）聞き取り調査から得られた結果と比較して、40 歳以上 50 歳未満の年齢層が少なく、60 歳以上 70 歳未満の年齢層が多い。

また、性別については、今回の聞き取り調査では全員が男性であった。

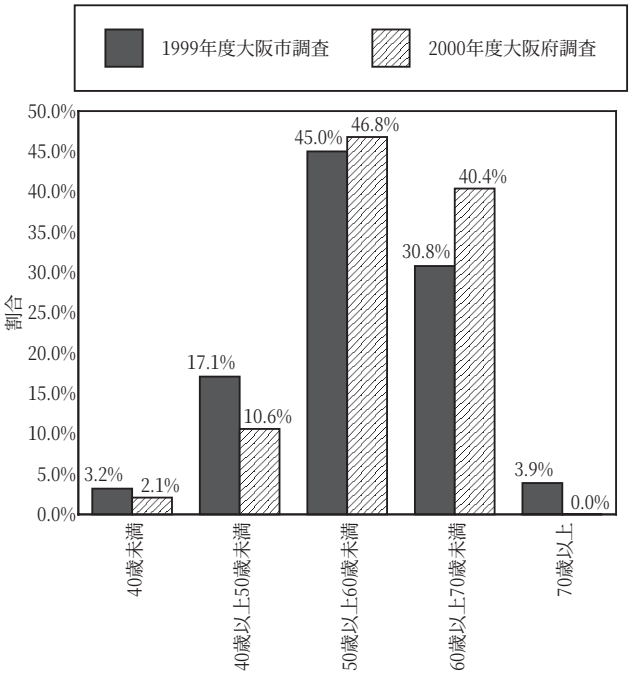

図 2.1: 野宿生活者の年齢分布（1999 年度大阪市調査と 2000 年度大阪府就労調査）

2.2　出身地

次に出身地について見てみる（表 2.1）。地方別で見ると、近畿地方、九州地方の割合が高くなっている。また都道府県レベルで見てみると、大阪府が飛び抜けて高くなっていることが分かる。近畿以西（西日本）の割合が高くなっている。

[注1] ただし、年齢が無回答だった 3 人をのぞく 47 人からなる

出身地方	出身都道府県	人数	比率 1
東北	青森	1	2.0 %
東北地方合計		1	2.0 %
関東	群馬	1	2.0 %
	東京	1	2.0 %
関東地方合計		2	4.0 %
中部	静岡	1	2.0 %
	愛知	1	2.0 %
中部地方合計		2	4.0 %
近畿	大阪	14	**28.0 %**
	兵庫	2	4.0 %
近畿地方合計		16	**32.0** %
中国	岡山	1	2.0 %
	山口	2	4.0 %
中国地方合計		3	6.0 %
四国	徳島	1	2.0 %
	香川	1	2.0 %
	高知	1	2.0 %
	不明	1	2.0 %
四国地方合計		4	8.0 %
九州	福岡	2	4.0 %
	佐賀	1	2.0 %
	長崎	4	8.0 %
	熊本	1	2.0 %
	宮崎	1	2.0 %
	鹿児島	3	6.0 %
	不明	2	4.0 %
九州地方合計		14	**28.0 %**
有効回答者		42	84.0 %
無回答		8	16.0 %
合計		50	100.0 %

表 2.1: 出身地方と出身都道府県

2.3　住民票

次に住民票の所在地について見てみる（図 2.2）と、不明・無回答も含めた調査協力者 50 人のちょうど半数が大阪府下となっており、府下 25 人中 17 人が大阪市と回答している。

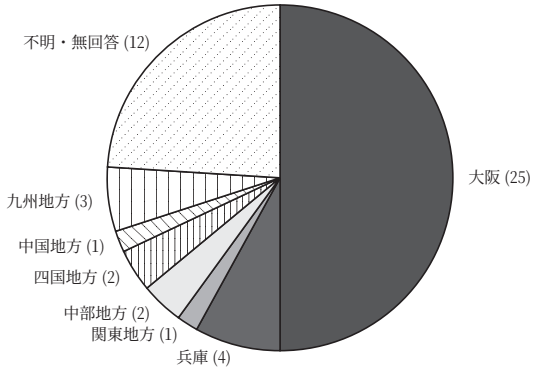

図 2.2: 住民票所在地

2.4　直前居住地

出身地（表 2.1)、住民票（図 2.2）と比較して、野宿を始める直前に大阪府で生活していた人はさらに多くなっている。大阪府下と回答したもの 35 人のうち、大阪市と回答したものが 30 人いた。

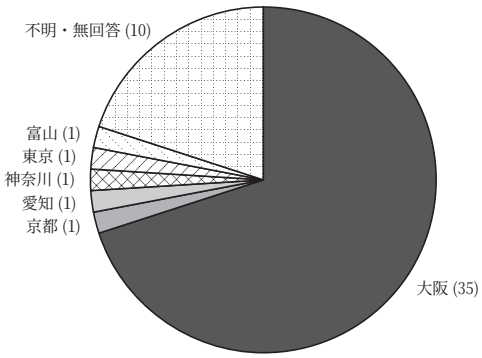

図 2.3: 直前の居住地

ここで、直前居住地が大阪府でない場所を回答している 5 人[注2]について、どのような経緯で大阪に来たのかについて触れておく。

「どのような理由で大阪にきたのか」をみると、5 人中 4 人は、大阪に仕事を探しに来ているのである。1 人は大阪以外の場所で野宿をしていて、大阪に流れついたという事例であった。

以下、具体的な事例を紹介しておく。最初の事例は、大阪に仕事を探しに来た事例で、後の事例は、大阪に流れついた事例である。

> 1997 年（55 歳）、横浜の飯場で建設作業員として働いていたが、仕事に就けなくなり 6 万円を持って大阪に戻って来る。「働いとったとこの人がな、大阪行ったら仕事あるから、大阪いったらどやって言うからな、大阪戻って来たんや。せやけどどこに仕事あるねんってなあ。全然仕事なんてあれへんやろ」。**（Case 29）**

> 「こうやってアオカンするようになってどれくらいですか？」
> 「そうですね 3 ヶ月くらいですかね。」
> 「じゃ、まだそんなに長くないですよね。ここで寝る以前はどこかで働いてはった？」
> 「働いてました。去年はね。ぼくは名古屋のほうだからね。」
> 「名古屋からいらっしゃったんですか？」
> 「名古屋から犬と出会って、ずっと九州まで行って、九州一周してから帰ってきたと。」
> 「じゃ、仕事でまわってはったんですか？」
> 「いや。だから犬と一緒にね。」
> 「じゃ、ここでは 3 ヶ月ということで。名古屋から九州からず～っと外で。そういう生活をどのくらい続けてはるんですか？」
> 「それは、1 年以上野宿していますね。はい。」**（Case 14）**

2.5　野宿形態

次に居住形態をみる（図 2.4）と、今回話を聞かせてもらった半数以上がテントで生活していることがわかる[注3]。

ここで、テントを張って野宿生活を送っているケース（テント層）とテントを張らずに野宿生活を送って

注2 直前の居住地が、京都、愛知、神奈川、東京、富山

注3 ちなみに、ここでいう「シェルター」とは、大阪市の釜ヶ崎地区内にある「あいりん夜間臨時緊急避難所」と長居公園内にある「長居仮設一時避難所」をさしている。

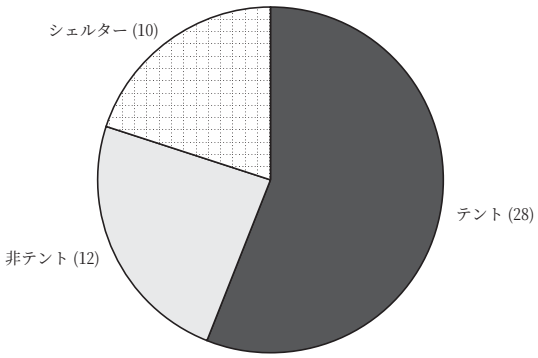

図 2.4: 野宿形態

いるケース（非テント層）について、「テントを張っているから」、「テントを張っていないから」という視点でいくつか事例を紹介しておく。

■テントを張る

西成で、建設関係の人夫出しの会社に日雇いで入り、土方の仕事をしていた。同じ西成に家賃 5 万円のアパートを借りて住む。1997 年 9 月ごろ、会社が倒産、失業。半年ほど仕事を探したりしながらアパートに住んでいたが、高齢のため仕事が見つからず、あきらめた。仕事がないとなると、5 万円の家賃がネックになると思い、貯金があるうちにアパートを出る決心をする。あちこちの公園を見てまわったが、ここが一番いいと思い、ここにテントを張った。自転車で 6 回往復して、家財道具を運ぶ。. . .（**Case 20**）

「せやけど簡単にテントは立てられへんで。テント立てて生活できるようになるまで 1 ヶ月半くらいかかったかな。それまでは、地下街で寝起きしてたんです。1 ヶ月半ほど。ボストンバック置いてね。あそこで寝て、おもむろに起きて。食べるもん、1 ヶ月半ほどパンの耳で生活してん。偶然に近くで寝てた人がそういうの知ってる、教えてあげるいうことで。親切な人で教えてくれるいうて。毎日ね。但し毎日いうて日曜日はパン屋が休みで、仕方ないから土曜日に二日分取らせてもらって、そうやって生活しました。だから 1 ヶ月半ほとんどパンだけやね。パンと水、最初はね。食べるもんどうやったら手にはいるか教わる前はね、ボストンバック置いてね、そこで寝転んでね、飲まず食わずいうたらおかしいけど、水だけ飲んで、食べるもんはなしで 4 日間過ごしたね。4 日くらいやったらなんとか立つことはできるけどね。せやけど人間ていうのはおもいしろいね、トイレは行きとなるねんね。トイレは行ったなあ、大も小も。それでまあ、パンの耳教えてもろうてしたら、やっぱり元気がでるね。もう、その時は仕事探しにいく気より、食べもん探しに行く方が優先でしたね」。

その後、テントを張って野宿を始める。テントを張って生活することができることを周りの野宿者から聞いたのである。テントを張るとともに、アルミ缶回収を始め、自炊も始める。（**Case 21**）

以上の二つの事例は、テントを張るまでの流れを、一方は貯金があるうちに準備をして、一方はテントを張らない野宿生活からテントを張った野宿生活へという事例だった。

■テントを張っても

年末、教会の人に物を色々もらったことも涙が出るほど嬉しかった。しかし炊き出しにはいかない。「そこまで落ちたくない」からである。「こんなテント暮らしでも工夫したらなんとかやっていけるよ」と言う反面、「気楽と言う人は多いけどやっぱり、精神的に疲れるね」とも言う . . .（**Case 19**）

テントを張っても厳しい生活であることはかわらないのだ。

■テントは張らない

テント張る気？
ない。だって撤去されるやろ。小さい公園もちょこちょこ撤去させられてるで。**（Case 16）**

「今結構ね、テント張って生活している人は多いじゃないですか。テントは張らないんですか？」
「張らない。テントはったらそこにじっとしとかないといけないやろ。同じ所にテント張ってってなったらしんどいやろ。いろんなところに動いた方がらくやろ。」**（Case 13）**

テントを張らない（張れない）理由としては、「撤去」、「定着したくない」など様々である。

■テントを張らないので

「店の人とかに何か言われたことありませんか。」
「嫌なことは言われたことはないけど、寝る前に掃除して、朝起きて掃除していくから。『私たちが店の前で寝るようになって、変なビラとか落書きがされなくてすむ。助かる。』と言われたことはあるけど。」**（Case 7）**

寝るとき（夜）、起きているとき（昼）で移動しなければならない。そのため、明日もそこで寝させてもらうためには気を使う。

2.6　野宿開始時期

野宿開始時期について見てみる（図 2.5）と、ここ 2,3 年以内に野宿を余儀なくされるような状況に陥った事例が半数以上だった。特に、1999 年、1998 年になって野宿をはじめたと答えている人が多い。

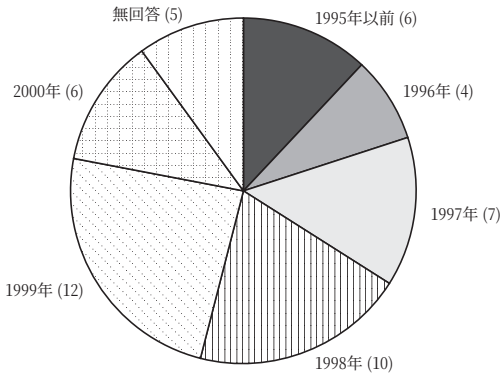

図 2.5: 野宿開始時期

第 3 章

職歴

次に本章では、今回聞き取りした 50 人がどのような仕事について、どのような状況で野宿せざるを得ない状況に陥ったのかについて見ていく。

3.1　全体の傾向

まずはじめに、今回話をした 50 人が就いた仕事について全体の傾向を簡単に見ていく。

3.1.1　産業・従業上の地位・就業期間から

聞き取りに協力してくれた野宿生活者 50 人の、「初職[注1]」、「最長職[注2]」、「直前職[注3]」について注目してみる。

■産業　それぞれについて、産業分類し集計した結果が図 3.1 である。

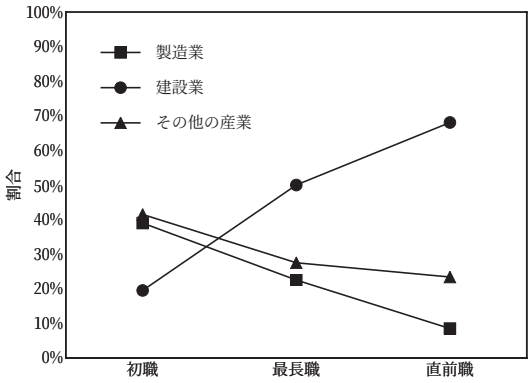

図 3.1: 産業分類

初職では、製造業やその他の産業[注4]の占める割合が高かったのが、最長職、直前職では建設業の占める割合が高くなっている。

■従業上の地位　次に従業上の地位について見てみる（図 3.2[注5]）と、初職では「常雇い」の割合が高くなっているが、最長職、直前職では「臨時・日雇」の割合が高くなっていることがわかる。

注1 学校を卒業して最初に就いた仕事
注2 主に従事していた仕事
注3 野宿生活をはじめる直前に就いていた仕事
注4 具体的には、卸売・小売り業, 飲食店、サービス業、農業、鉱業
注5 図中の「その他」とは「家族従業者」、「見習い」などが含まれている。

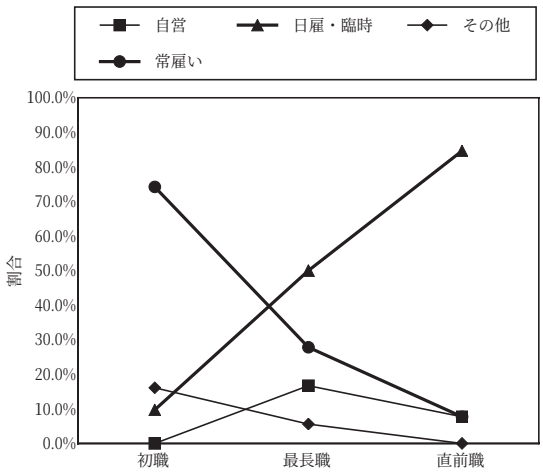

図 3.2: 従業上の地位

■就業期間　次に就業期間について、特にここでは、就業期間が最も長かったと思われる、最長職の就業期間を見ていくことにする。

「10 年未満」の期間を答えて割合は約 1 割程度で、20 年程度の期間を答えている割合が高かった。最低で 1 年、最高で 38 年、平均して 19 年程度、「同じ種類」の仕事に就いてきたという結果が得られた。

3.1.2　釜ヶ崎での就労経験

次に釜ヶ崎で働いた経験があるかどうかという質問に対する答えを集計した結果が表 3.1 である。これを見ると釜ヶ崎で働いたことがあると、約 6 割の人が答えている。

項目	人数	比率 1	比率 2
釜ヶ崎で働いたことがある	29	58.0 %	63.0 %
釜ヶ崎で働いたことがない	17	34.0 %	37.0 %
有効回答者数	46	92.0 %	100.0 %
無回答	4	8.0 %	
合計	50	100.0 %	

表 3.1: 釜ヶ崎就労経験（全体）

ここで、今回は、大阪市内だけではなく、堺市や豊中市などにも話を聞きに行っている。現在野宿をしている場所（大阪市内か大阪市外か）で、釜ヶ崎での就労経験の有無は異なるのだろうか。

今回の聞き取り調査では、大阪市内で野宿している人の約 71 %が、また、大阪市外で野宿している人の約 36 %が、釜ヶ崎で働いたことがあると答えた。明らかに大阪市内の割合が高くなっていることがわかる。地理的に考えると当然の結果だろう。

だが、大阪市外で釜ヶ崎で働いた経験がないと答えて人の大半は最終職では、臨時もしくは日雇で建設業に従事していたという結果が得られている。つまりは、釜ヶ崎を経由したかどうかという違いはあるものの、建設業の最底辺で働いて来た人たちだったのではないだろうか。

もちろん、今回の調査は聞き取った人数が 50 人であること、サンプリングを行っていないことから、今回の調査結果が大阪府下の傾向ということはできない。

3.2　事例

先に述べた全体の傾向を踏まえながら、以下、今回の調査に協力してくれた野宿生活者の職歴について、典型的な事例と思われるものを、いくつか紹介しておく[注6]。

■建設業　以下、主に建設業に従事してきた 3 つの事例を紹介する。一つ目は、釜ヶ崎で長年就労してきた日雇労働者の事例、二つ目は、全国を転々とする飯場層の事例、三つ目は、何カ所かの工務店で建設業に従事していた事例である。

1957 年大阪で生まれる。
高校をでて、仮枠大工をしていた親父の紹介で町屋の左官の見習いをすることになった。
保険はかけてくれてたかもしれないがわからない。
上下関係がきびしく「てこ」をもつのには一年以上かかる。
が、一年になるかならないかぐらいでやめた。
小さかったとき犬好きだった彼を石川で乳牛の牧場をやっていたおばさんは「動物好きやったからこっちに来いさい」と誘い、彼はそこで 1,2 年働いた。牧場の朝は早く、乳を搾るのはやはり体力がいる。力仕事だ。いろいろな事情で牧場の仕事を辞める。
そして、二十歳のときに釜ヶ崎へやってきた。現在、43 歳なので、日雇をはじめて 23 年。
仕事はおもに型枠、解体業、あと土木。
今年 2001 年になってえべっさん（十日戎）以降仕事がでている。えべっさんまでは仕事がなかった。仕事がでたといっても賃金はだいたい 1 万 1500 円。9000 円のところもあった。このあいだは 1 日 1 万円で飯代 3800 円、そのほか 3000 円とられて、一日 3200 円しかのこらないところがあった。
この日も姫路の高速道路の橋桁の工事に行ったものの残業が多く、朝出に残業をしても時間外がつかないのでてきたところだった。
最近は本当にひどい場所が増え、二級の印紙を貼るところもある。
仕事は平成 9 年（1997）から就けなくなった。きついときは拾い食いもした。日雇労働者は「スクラップみたいなもんやからな」必要なときだけ呼ばれるなどといっていた。**（Case 34）**

1960 年（18 歳）で大阪の高校を卒業し、高速道路の防音壁をはる仕事を 1969,70 年（27,8 歳）まで約 10 年間した。この仕事は、保険とか年金などは一切なかった。この仕事を辞めた理由として「そう。あのころは若かったし、給料もよかったからな。金につられて、基礎工事関係の仕事にうつった」と語る。基礎工事関係の仕事は、一ヶ所の会社につとめるというものではなく、数人でグループ組んで仕事が入ればその現場の飯場にいって、というような請負仕事をしていた。その仕事の半分以上が公共工事であった。「橋も架けにいったし、山の土とめにもいったし。地下 55 メートルまで、手掘りで穴掘ったり、土砂崩れした山の斜面を土とめしたりな。想像もつかんやろ。えらい仕事やぞ。危険な仕事した。」賃金は最低でも 1 日 3 万円はもらえた。しかし景気が悪くなるにつれ、仕事が減少し、とうとう 2 年半前（1998 年夏）に、それまで住んでいたアパートを家賃払えないという理由で出た。その後西成行ったが、仕事が全くなくて、1 年半前（1999 年）くらいからここで野宿している。**（Case 24）**

昭和 14 年生まれ、61 歳。瀬戸内海の島で生まれる。身内（両親）はいない。

注6 ただし聞き取り調査メモの職歴の部分を抜き出して再構成したものである。

小さきときに施設に預けられて、そこから養子にいったけど、そこの母親も早くに亡くなった。それから結婚もしてへんし、天涯孤独や。

中学校卒業してから集団就職でこっちに来てからはずっと大阪かな。

建設関係の仕事で、大阪の 4,5 ヶ所の工務店で働いていた。一番長いところで、20 年くらいかな。住んでた所は、まかないはなかったけど、会社の寮だったよ。朝はどっか喫茶店でモーニング食べて、弁当どっかで買って行って、夜御飯食べて、お酒のんで。

「はつり」の仕事をしていた。仕事が一番調子よかった時は、1 万 7 千円から 2 万円くらいはあったんじゃないかな。それでも、食事してお酒のんだらあんまりあまらなかったな。結構力のいる仕事で。2 年半前に病気（心筋梗塞）で倒れるまでは体力には自身があったんやけどな。

最後は大阪市内の工務店で 10 年間くらい勤めていた。その工務店のおやっさんは、自分に身よりがいないとうこともわかってて、雇ってくれとったんや。だから、病院に半年入ったときも良くしてくれた。けど会社が倒産してしもたら仕方ないわな。

病院から退院してきて、釜ヶ崎にはじめて仕事を探しにきたんや。でも来てびっくりした。人は多いし、仕事はないし。で、釜ヶ崎で野宿をはじめる。

現在、社会医療センターで薬（ニトロ）をもらいながら、1 週間だけ NPO からのガードマンの仕事があたったので、仕事をしている。**（Case 37）**

■製造業から建設業へ　次に、製造業から建設業に従事した事例を 2 つ紹介する。一人目は、町の鉄工所で初職につき釜ヶ崎以外で建設業に従事した事例、もう一人は、同じように鉄工所で初職につき、製造業関係の季節工を経て、釜ヶ崎で建設業に従事する事例である。

1936 年、大阪府に生まれる。母親が 40 歳のときに生まれた。「生まれたんもこの（野宿している場所の）近所。学校も近所の学校やし、まあずっとこの近所やね。ずっと大阪。でも小学校 1 年か 2 年の時、母親と一緒に、富山に疎開したんよ。富山に母親の実家があったから。勉強なんて全然せんよ、そんなん。イモ掘ったりそんなんばっかりしとったから」。敗戦後、疎開先から戻ってきて中学校に通う。「中学校も勉強なんかほんま、それどころじゃないって時代やったからね。親についてサツマイモやら食べモン集めに汽車乗っていったり、そんな時代やったからね。高校なんか行こうなんていう状態じゃなかったからね。周りの友達もそんな感じやったんちゃうかなあ。高校なんか行かんでも普通っていう時代やったからね。今とは違うよ。親も学校より手に職つけてって感じやったからね」。

1951 年（15 歳）、中学校を卒業後、すぐに親の薦めで近くの鉄工所で旋盤工として働き始める。10 人程度の規模の鉄工所だった。電線の束を束ねる金具や消火栓の口の金具を作っていた。

「鉄工所で働きだしたんよ、中学出てすぐ。そこがまた、親方がほんますぐ殴るような人でなあ。ほんますぐ殴られた。もう無茶苦茶なことさせられたわ。ほんま恐ろしい親方でなあ。今とはちゃうで。技術も教えてなんかくれへんからなあ。殴られて覚えろって感じで。親呼び出されて怒られたこともあったわ。ほんま今とはちゃうねんて。給料はもらっとったけどな、一応月払いで。全部、親に渡すんよ、親方が。 . . . 保険とか？そんなんないって。そらその時でも大学出て大会社で働いとったような人らはそんなんあったやろうけど、ワシらそんなんないって。親方が何人か雇って、そやなあ 10 人くらいかなあ、そんな小こい工場やからなあ。もう一切なし」。1 年するかしないかで A 氏はこの鉄工所を辞める。「なんで辞めたって、辞めさせられたんよ、親に。親がもっと給料ええ会社あるからそっちに移れってなって。そんな感じやったよ」。

次に就いたのは「A 便箋」という会社で工員をしていた。

その後も幾つかの仕事を転々とする。保険などのある仕事場ではなかった。

1966 年（30 歳）頃、建設業で働き始める。主にトビの仕事に就いていた。ある一人の親方の所で日払いの仕事に就いてきた。ここでも保険などは一切なかった。「そやなあええ時は一日 2 万くらい稼い

どったかなあ。そらサラリーマンなんかよりずっと給料良かったで。年金なんか払ってなかった。何でってな、稼ぎ良かったもん。年金なんかかけんでも大したことないわーって感じやったからなあ」。

30 年以上建設業の日雇を続けてきたが、釜ヶ崎から仕事に行ったことはない。

歳を取ってくると大手の会社で働く時には歳をごまかすようになる。「大手はなあ、歳ではねるのよ。歳取ったモンを雇っとってケガされたら、そんな歳いってるモンにトビみたいな危ない仕事さす方も悪いいうことになるからなあ。危ないいうて使うてくれへんのよ。大手は最初に歳なんぼでとかなあ、健康診断とかで全部取られるからなあ。大手の時は歳ごまかしとったよ。小さいなあ、親方が一人でやっとるような所やったらそんなんは何にもないねんけどな」。

1994 年（58 歳）頃から、親方について仕事をするようになる。大きな倉庫の屋根や壁を取り付ける板金の仕事である。「親方のとこから仕事行ってたんよ。一緒に働いてたんはなあ、そやなあ 9 人かそこらやな。出張もよう行ったで。民宿泊まってなあ、和歌山の。給料は日払いや。5 年くらい働いとったかなあ」。

しかし、1997 年（61 歳）頃から徐々に景気が悪くなっていく。「そうやなあそれくらいから景気悪なっていって、仕事減っていったなあ。そら景気悪なったら倉庫なんか建てへんやん。仕事ないから人数も減らしていってなあ。ほんだら今度は人数減ったら大きい仕事は取れへんやん。そんなんで悪い方悪い方いってもたんよなあ。ほんでまあ、大阪市内にアパート借りとってんけど家賃払われへんようなってまあ結局野宿するようになったわけよ」。仕事が減り、1999 年 7 月（63 歳）野宿するに至る。**（Case 47）**

1938 年群馬県に生まれる。中学校を卒業後、地元の鉄工所で働きはじめた。当時そういった工場（その工場は 150 人ほどの規模であった）では新卒は 50 人ほどの募集を行っていたが、実際は 5〜10 人しか集まらなかった。それは、賃金が日当 70 円と安かったためではないかと理由を言う。自身も 2 年で辞めてしまった。その後就職した同じ群馬の製造業関係の大手の企業では、日当 350 円の収入であり 10 年以上続けたが、個人的に失敗をしたことで退社した。退職金や保険といったものは一切なかった。

1966 年（28 歳）から、季節工として車の生産会社、家電製品製造メーカーなどでそれぞれ半年から 1 年位、合計で 5 年ほど働いていたが、万博のあった 1970 年頃からは完全に日雇いとして釜ヶ崎から仕事に行き出した。20 年以上同じ釜ヶ崎のアパートで暮らしていたが、次第に飯場やドヤでの生活に移行してゆく。そして、1998 年（60 年）夏より、仕事がなくなったため「暇なって」来たこの場所でテントを張って野宿生活をはじめた。**（Case 12）**

■製造業から製造業へ　次に、製造業関係にずっと従事している事例を紹介する。

1950 年大阪市に生まれる。大阪で育ち、1968 年（18 歳）に大阪の高校を卒業する。高校卒業後、1 年くらいの間は東京でブラブラして暮らしていた。

1969 年（19 歳）、大阪に戻り印刷会社に印刷工として就職（常雇）する。印刷工として腕を磨く。その会社で職人としての腕を認められ見込まれて、社長に独立を勧められる。独立資金も社長が用立ててくれたので就職から 6 年後の 1975 年、25 歳で独立する。大阪府で印刷会社を経営するようになる。化粧品の瓶などにプラスティックで印刷する会社で、独立当時はそのような印刷をできる会社が他にはなく、非常に儲かっていた。会社独立とほぼ同時に付き合っていた女性と結婚する。80 年代までは会社の景気も良く、工場は 8 人の従業員を雇い、順調であった。

独立当初は、印刷の品質について取引先もうるさくなかったが、徐々に品質について厳しくなるようになり、品質が悪ければ返品されるようになる。返品の場合、印刷代がもらえないだけではなく、印刷した瓶も買い取らなければならないので、赤字が出てくるようになる。80 年代終わりから 90 年

代になると経営もやや厳しくなってきたようだ。しかし、印刷関係の世界では「『印刷の A』と言えば超有名やった」というぐらい腕には自信があった。

厳しいながらも経営を続けていた 1994 年、台風で工場内が水浸しになる。工場内には、ドイツ製化粧品の瓶に印刷をし終えたものが山積みにしてあった。台風で進入してきた水はその印刷をボロボロにしてしまった。瓶代の代金も請求されることになり、取引先に 1000 万円の借金を背負うことになる。

1000 万円の借金が直接の契機となり 19 年連れ添った妻と離婚する。妻は息子を連れ、妻の実家のある愛媛に出ていく。1994 年、19 年続けた工場が倒産する。工場兼住居も引き払い、残す現金は 50 万円のみになっていた。8 人の従業員に払う退職金ももはやない。「退職金は払えん。その代わりにみんなで旅行に行こう」。退職金代わりにその 50 万円で従業員を秋吉台への旅行に連れていき、完全にスッカラカンになる。

金融屋からの借金ではなかったので、取り立てに追われることはなかったが、大阪にはいられなくなり、倒産後すぐに和歌山に行き、印刷関係の仕事のツテで B 印刷会社に印刷工として就職する。漆器に模様をスクリーン印刷する会社である。印刷用の塗料の調色ができたので、その社長には重宝がられた。和歌山ではアパートを借り生活していた。仕事場での人間関係が理由で、社長には引き留められたが、約 1 年間勤めた工場を退社する。1996 年の冬のことである。

和歌山の工場を退職すると大阪に戻ってくる。帰ってきてすぐ、お酒を大量に飲んで酔っぱらって道で寝てしまっている内に、財布から何までを取られてしまう。持ち金がスッカラカンになってしまい野宿が余儀なくなる。大阪に帰ってきてすぐに、現在とは別の場所でテントも建てずにに初野宿をする。真冬のことであったので、寒さに「ふるえもってねてた」。途方に暮れ、現在の場所に行ってみると、長老のような男性に声を掛けられ、その男性がご飯をおごってくれた。「うれしくて、涙出た」そうだ。テントに泊めてもらった次の日の朝、その男性に、「今日から米と酒を調達してこい」と言われ、あわててその場を後にする。その後、長年生活していた大阪府下のこの場所で野宿するようになる。**（Case 48）**

■運輸・通信業　次に、運輸・通信業に携わってきた事例を紹介する。

鹿児島出身。64 歳。

高校を出た後、タクシー会社に勤めていた。タクシーの運転手を約 30 年。計 6 カ所。大阪市内のタクシー会社だった。タクシーもトラックの会社も保険、年金をかけてくれていた。タクシーもトラックもすべて歩合制だった。一日一万円稼いでいた。最初についた A タクシー（会社）には 600 台ぐらいあった。このタクシー会社は厳しい。車のにおいのチェックなどをする。しかしこのタクシー会社で働いていた経験があればどのタクシー会社でも雇ってくれるほど。

野宿をする前はトラックの運転手。トラックは 10 トントラックに乗っていた。トラックは 24 時間走りどおしで仕事きつい。トラックの会社には 60-70 台あった。トラックの運転手を約 20 年、2、3 カ所。

定年前に配偶者が亡くなり仕事を辞める。退職金に 800 万円もらったが、2、3 ヶ月で使い切ってしまう。その後アパートをひきはらい、野宿する。現在野宿して 3 年になる。

子どもが娘 2 人に一番下に男の子がいるがどれも結婚し、頼ることができない。妹夫婦が大阪にいたので彼らを頼って大阪に出てきた。

現在でも免許の更新はいっている。**（Case 25）**

今までは産業を中心に、今回の聞き取り調査で多くの事例が分類されるであろう、典型的な事例を紹介してきた。最後に、典型的な事例ではないが、直前職がサービス業の事例を紹介しておく。

■最後についた仕事がサービス業　一つ目はホテルの掃除を辞めてから野宿を始めている事例、二つ目はパチンコ店を辞めてから野宿を始めている事例である。

年齢は 1943 年生まれの 57 歳。

東京生まれの東京育ち。

高校を卒業してから、メラニン樹脂製の板を作っていた。結構大きな工場のようでプラスチック関係のもの、バケツなどを他の課ではつくっていた。彼は 1 課はなにを、2 課は . . .、5 課はと説明してくれた。ここでは常雇いで 3 年間働いた。各保険もあったようだが、退職後失業保険をもらうことはしなかった。失業保険などに頼りたくはないようだ。

そしてこの会社を辞めた後すぐにヘルニアになる。病院をいくつもいったが治らないと言われ、手術することになる。手術をしたが、そのヘルニアの後遺症でいまでも腰を曲げる仕事をすると足がはれてしまう。

ヘルニアの手術後激しい仕事はできないので、セールスの仕事を始める。そこで知り合った同僚と 24 歳のときに大阪へ行こうということになり、二人で大阪へやってきたが、一人はやっぱり東京のほうがいいということで帰った。

そして彼は何か手に職をつけるためにパン屋で勤める。当時はパン屋がはやっていたがバブル崩壊ぐらいのときにパン屋がはやらなくなってきてやめざるえなくなってパン屋をやめる。

その後仕事がないので、ホテルの清掃を主にしていく。梅田などいろいろなホテルを転々としたが、6 ヶ月ほど働くとヘルニアの後遺症でくるぶしあたりがはれてくるので 1 ヶ月ほどやすまないといけなくなる。迷惑をかけるわけにいかないと彼はそのたびに仕事をやめる。最後の勤め先ではなおったらまたお願いと言われていたのに治って、行くともういらないと言われた。30 件ぐらいまわったがどこも採用してくれず、15、6 万もって野宿することにした。それでも一日千円ほど最初はかけていたのですぐにお金はつきた。おととしの夏のことだった。

ホテルの清掃の仕事もいまでは年齢制限が厳しくなっているという。むかしはむしろ年寄りの仕事であったようで、清掃の仕事をやり始めたころ面接に行くと若いのにと言われたこともあるという。いまでは 50 歳未満でないと雇ってくれないという。ある時面接にいくと一人の募集に 50 人面接にきたという。若い人のあいだではまだまだ仕事があるようだが、年寄りのところにはないことをしきりに言っていた。**（Case 3）**

1951 年生まれの 49 歳、出身は大阪府。

高校を卒業して大阪堺市にある大手の工業関係の会社に就職する。

ここは自転車の部品を作っている会社で競輪の自転車も作っていた。競輪用の自転車は選手用に設計され注文通りにつくらなくてはならないので技術がいる。工場で自転車のギヤなどを作っていた。NC 旋盤やプライスやロボットを使っていた。板から切り出すときに先がダイヤモンドのものできりだすが、それは最小のもので 5mm なのでそれより細かくきりだしたいときはその先を水が噴射されるものに付け替える。水のものだとなによりも柔軟に扱える。特に熱が少ないので変形が少ない。また自分で図面も書いていた。

33 歳のときに自分の腕が認められて、埼玉県にある大手の製造関係の会社に出向でいくことになった。このとき係長。ここで 5 年ほど働いたが喧嘩をしてタンカをきって会社を辞める。辞めた理由は「気が短くてな」。

この会社を辞めた後、東京へ行き、さまざまな仕事を転々とする。その後、京都へ行き、太秦の映画村で小道具を作る仕事につくが、おもしろくなく、数ヶ月でやめてそこでできた知り合いに紹介されて京都の旅館に勤めることになる。

旅館（客商売）なので身元保証人は二人必要だった。そこではしばらくしてフロントをまかせられ

た。フロントの仕事は、早朝までで、朝しか休むことはできなかった。そこで 4 年間勤めたあと、大阪へでてきた。

大阪ではパチンコ屋に勤めたが、フロアではなくて、事務をまかされていた。パチンコ屋の事務はきびしく玉の数と勘定が合わなければならない。朝の入れた玉をつける事務と終わりの確認をする事務がいて自分は後者の方だった。このパチンコ屋では住み込みで働いていた。一階がパチンコ屋で上がアパートになっており、その上何階かが従業員用のフロアになっており、そこで住んでいた。半年でパチンコ屋をやめて野宿をすることになる。現在、野宿して 2 年半になる。**（Case 46）**

第 III 部

生活実態

第 4 章

生活実態

4.1　現在の仕事の有無

現在、何らかの「仕事」をしているかどうかきいたところ、39 人（約 8 割）から「仕事」をしているという回答を得た（図 4.1）。これは、1999 年大阪市が行った聞き取り調査の結果（約 8 割の野宿生活者が何らかの「仕事」に従事している）と同様の結果が得られた。

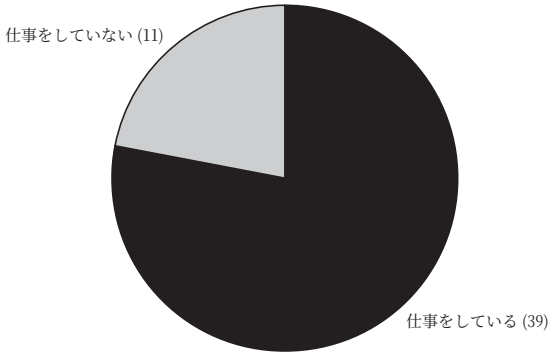

図 4.1: 現在の仕事

4.2　仕事内容と収入

現在仕事をしていると答えて者に対して、どのような仕事をしているのかと聞いた結果を集計したものが、図 4.2 である。

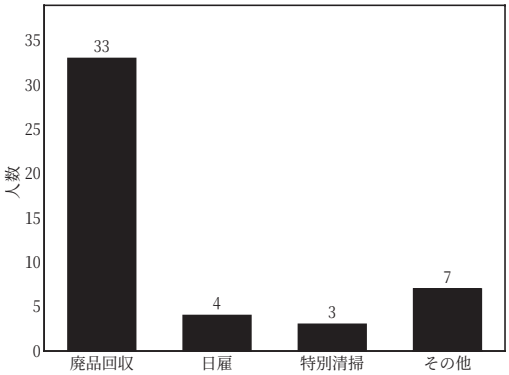

図 4.2: 現在の仕事内容

図 4.2 からも明らかなように、現在仕事をしている人の 8 割以上（33 人）の人が「廃品回収」を行っていると答えた。また、回収品目について見ると、廃品回収をしている人の 9 割以上（31 人）がアルミ缶を、そして約 3 割（11 人）の人が粗大ゴミを回収していた。また廃品回収をしている人の約 8 割以上[注1]が「毎日働いている」と答えた。そして廃品回収をしている人の収入を見てみると、1 ヶ月あたり 5000 円から 80,000 円で、平均して 29,700 円と 3 万円に満たなかった。

「特別清掃」と答えた人の就労日数を見てみると 2 日もしくは 3 日、一回当たり 5700 円（実質 5400 円）の収入なので、1 万円から 1 万 5 千円の収入になっている。

4.2.1　現在の仕事～具体的に～

以下、現在の仕事内容、収入などについて、いくつかの事例を紹介する。

■廃品回収　ここでは 5 つの事例を紹介する。最初の事例は空き缶だけを回収している事例、次の三つの事例は、空き缶と粗大ゴミを回収している事例、最後の事例は新聞や雑誌を集めている事例である。

1996 年（56 歳）からは、高速道路の高架下の下にダンボール囲いを作り、そこで野宿するようになる。その頃から（元）野良ネコを飼っている。子どもが生まれたりして、世代交代しながらもトータルでは 12 匹になっている。その頃からアルミ缶回収をしている。1 日 1600 円程度は稼いでいた。そこで 3 年半生活していたある日、アルミ缶回収から帰ってくると囲いダンボールに「追い出しの張り紙」が貼られていた。3 年半生活していた場所を「仕方がない」と「自分で出た」。それからは台車に寝床用のダンボールと毛布などの生活用品を積んで、日中はアルミ缶回収、商店のシャッターが降りる頃、ダンボールで囲いを作り眠るという生活をするようになる。

高架下を追い出されてからも、飼っていたネコにエサをやるために高架下には通っている。1 週間で大きな袋入りのキャットフード 3 袋食べる。全てアルミ缶回収で得た収入でまかなっているが 1 日 400～500 円はエサ代にかかる。テントを建てようと思わないのも、「扶養家族（ねこ）おって、他には行かれへんからなあ」。

今年の冬、「凍傷みたいになって、手が曲がらんように」なった。はめていた黒い手袋をぬいで見せてくれる。手は黒く曇った色になっており。指の関節は肉がえぐれてへこんでいた。曲げようとしてもほとんど曲がらない。手が自由に動かなくなり、アルミ缶の回収も思うようにできなくなった。それまでは 1 日 1600 円程度は稼いでいたが、手が動かなくなってからは 1 日 800 円程度しか稼げなくなった。**（Case 6）**

現在仕事は廃品回収を毎日朝の 5～8 時と夕方の 5～8 時にやっている。区役所からもらってきた粗大ゴミの収集日表と拾った地図を元に、主に松原市へ自転車で行く。アルミ缶の他に電化製品などを拾う。アルミ缶は日本橋では 1 キロ 80 円で野宿している近所では 55 円だそうだ。運が良ければアンプやコンポを拾えて、近所の寄せ屋に持っていけば 5000 円や 9000 円で引き取ってもらえるそうだ。しかし平均的には 1 日 1000 円程度で、月 2～3 万程だ。**（Case 1）**

空き缶と電化製品を拾うのが主な収入である。電化製品には 5000 円で売れるものもあり、大体 1 日 1000 円の収入は確保できている。使っているリアカーは色々なものの部品を組み合わせて作った自作品である。空き缶を 20～30　載せられるものと、100　は載る粗大ゴミ用のものと 2 台所有している。本当はもっと大きくしたいが、邪魔になって注意されたとき耳が悪いため気付かないことが多い。それはとても迷惑なのでこの大きさで抑えているのである。東大阪の方へ集めに行き、マンショ

注1 現在廃品回収に従事している人のうち、就業日数を回答した 22 人中 18 人。

ンを 20 件くらい回るのでかなり時間がかかる。寄せ屋も値段の高い日本橋までわざわざ持って行く。昼は恥ずかしいので、でかけるのは深夜から朝方である。**（Case 18）**

野宿生活になってから 3 年になる。日々、アルミ缶や電化製品を集めて、それらを売ってわずかながらも稼ぎを得ている。アルミ缶は寄せ屋にもっていくが、電化製品は野宿しているこの公園に中国人が買い付けにくる。「そのまえの通りに車でのりつけて、壊れていてもいいから電化製品を買っていく」。それを中国で売っているとのことだが、なかの機械を再利用しているわけではなく、外のプラスチックをそのまま再利用するようで外見がきれいなのから買っていく。なかの部品は中国のほうが安く作られているため必要なのは外見だけだそうだ。特にコンポなどは高く買ってくれるらしい。値段はいいもので 3000 円ぐらい。それらを集めに行くのはやはり夜で、「そのあたり周りの人（住民や行政？）はわかってくれへん」。**（Case 23）**

野宿を初めてからしばらくの間は何も仕事はしていなかった。しばらくして、A 氏の近くに野宿している人からスポーツ新聞や雑誌を集めればお金を稼げることを教えてもらう。野宿を初めてから A 氏はスポーツ新聞や雑誌を回収して釜ヶ崎で販売することを仕事としている。

「毎日なあ朝の 3 時に起きて仕事の準備や何やして、新聞な、スポーツ新聞や雑誌や集めて電車乗って西成持っていくねん。この辺は結構集まるからなあ。新聞もスポーツ新聞やないとあかんねん。西成行ったら競馬でもボートでも競輪でも何でもやってるやろ。ノミ屋よノミ屋。せやから西成もってったらすぐ売れるねん。まあ 1 日千円くらいかなあ、大体ね。まあ何とかメシには困らんくらいは稼いでるよ」。**（Case 29）**

■日雇　日雇に従事している事例を紹介する。「日雇」に従事しているから 1 日 1 万円くらいはもらっているのかと思うかもしれないが、以下の事例のように、ほとんど収入を得ていない事例が目立った。

まだ若いので仕事を探しやすい。最近もちょこちょこセンターから仕事に出ているらしい。探しやすいといっても、3 日に 1 回ほどであるようだ。しかし、「今どのくらい稼がれているのですか」という質問に、「ほとんどないよ」「でも仕事行かれてるんですよね」「まあ 3 日に 1 回くらい」というので、それなりに稼いでいるのかと思いきや、契約で行った飯場は大体途中で投げ出してしまう。この日の前日も、10 日契約の飯場を 3 日働いただけで飛び出して帰ってきたばかりで、全くお金を貰っていなかった（2000 円だけ前借りしたらしいが）。こうしたことがよくあるらしく、かなりただ働きをしている。仕事の回数ほど稼ぎはないようである。

また、かなり悪い待遇の飯場が多いようで、ほとんどお金にならないことがよくある。ちょっと前にいった千里の I 建設などは、2 日働いて 1000 円しかくれなかった。こういうことが多いため、もう飯場はやめて現金ばかりでやっていこうと思っている。**（Case 35）**

■その他の仕事　仕事内容で「その他」に分類される仕事について三つ具体例を紹介する。

現在の仕事はシェルター内で出されている仕事のみである。公園の清掃や警備で、時給 700 円である。4 時間で 2800 円。6 日に一回の輪番制なので、月にしたら 14000 円くらいである。「14000 円でたばこ（わかば）と食費とまかなってる。たばこも昔はロングピース吸ってたけど今はな。食費が 8～9000 円かな、一日 300 円足らずや。もう極貧生活よ。でも 14000 円でも暮らしていけるんや。たばこ吸って朝夕ご飯食べて。まあ人は『信じられん』言うやろが」。**（Case 42）**

この事例のように、シェルターで話を聞かせてもらった人の中には、NPO 釜ヶ崎から斡旋されている仕事に従事している事例があった。

また、次にあげる二つの事例は、今回の聞き取り調査では 1 人ずつしかいない、「めずらしい」仕事だった。

「シールとか集めてるんよ。」

「シール？」

そこには、懸賞品を応募するように自動販売機の横などに置いてある、シールを貼って出す葉書が。

「え、懸賞品生活っていうことなんですか？」

「ちがうよ。あまり大きな声では言われへんけど、そういうシールを 1 枚 5 円くらいで買ってくれるところがあるの。」

「1 日シールってどのくらい集まりますか。」

「隣にいる人と一緒に集めてるのよ。1 日だいたい 300 枚くらいかな。」

いろいろな懸賞用のシール一覧がはっているシートを見せてくれる。一つ一つに、1 枚○円と書かれている。値段が一番高いもので 7 円、安いもので 4.5 円と書かれていた。

「1 枚の値段が 7 円のものもあるんですよね。」

「そう、あんまりでまわっていないシールは 7 円くらいするものもある。でも A みたいによく出回っているのは 4 円 50 銭くらいなの。それ以外にも B（飲料メーカ）のシールもあるけど。」**（Case 7）**

現在は中央卸売市場で野菜を買って、それを公園の近所にある団地で売って生活費にしている。月に 7、8 万円になる。

聞き取りに行ったときはいもかなにかを袋詰めしていた。また聞き取りをした後もう一度そのテントの前を通ったが主婦らしきおばちゃんがそのテントを取り巻いていた。このテントに直接買いにきているのかもしれない。**（Case 26）**

4.3　仕事をしない（できない）理由

次に、現在「仕事」をしていない（できない）人が 11 人いる。その人たちは、どのような理由で仕事に従事していないのか、また、どのように生活しているのかを見ていくことにする。

まず、仕事をしていない（できない）理由について見てみると、大きく二つの理由、「体力的な理由」、「他からの収入」をあげることができる。

■体力的な理由

「野宿生活の実態とか、仕事に関する要望とか聞かせてもらいたんですけれども。」

「わし、もうどうやって死のうかと考えているから、仕事をする気はないんや。」

「失礼ですけどおいくつですか？」

「65 歳や。体もえらいんでもう仕事しようとは思わない。」

「体がえらいんだったら、生活保護とか福祉事務所に申請にいかないんですか？」

「救急車さえ呼んでしまえば病院に行って福祉にかかることができることは知っている。65 歳だから生活保護をうけれることも知っている。けどそれは最終の手段であるので、今はやりたくないと思ってるんや。」

「じゃ、今は仕事は？」

「空き缶をときどき集めるけど、ほとんど仕事はしてない。」**（Case 11）**

■他からの収入（貯金・年金・支援）

貯金が多くあったため、野宿をしてから働いたことがない。アルミ缶集めなどもしていない。貯金はそろそろ尽きるのであるが、「長生きしても仕方ない」と、先のことは考えていなく、どんな仕事でも働く気は全くない。**（Case 20）**

現在は年金（約 20 万円）をもらっており、厚生年金、年金基金と二つかけてあった。現在住所を確保しているので年金を受給している。

年金があるので仕事はしていない。**（Case 25）**

つぎに、現在仕事をしていないが、何とか食いつなぎ生き抜いているという事例を紹介する。

■生き抜く

「でも、ま、何とか食べて。」

「そうや、贅沢しなかったら、何とか生きていけるわ。あれ食うや、これ買うわ言い出したらきりがないからな。パン屋さんのパンでいいんや。パンがいやだったら、売れ残りのお弁当もでるしな。賞味期限きれたような弁当やけどな。でも冬場やったら何とかいける。夏場、ちょっと春になりはじめると糸が引っ張りはじめよる。そんな弁当食べられへんがな。臭いもしよるし。大概へんな臭いしよるし。」

「で、そんなので食あたりしたことはない？」

「若い頃したことあるけどな、一度したらな。そらやめとけということになるわな。なんぼええ弁当やゆうても食べへんようになるわいな。」

…

「じゃ、炊き出しなんかは？」

「行ってない。炊き出しいくんやったら、スーパーマーケットとかな、ゴミ箱とかの方がましや。弁当ほかしてくれるもん。」

「あ、そっちの方がいい。」

「う～ん、自分の好きな物たべられるやろ。」

「ここらへんやったら食べ物？」

「ここらへんのはいい物はない。」

「じゃ、普段どこまでいきはるんですか？」

「市場。あすこがええのだしてくれるんや。競りが終わってからの、腐っているやつやらな、半分かけたやつやらな、そんなんがあるんや。みんな行きよるからな。たかっとるは。表で待っとるわいな。まだかいなって。『もうええぞ～』って言ったらぱっとな。」

「持っていってもガードマン何もいいません？」

「『あ～、また来たんか。』って感じやで。そのかわり、山になっているところな崩さないように、手を突っ込んでな、これは食べれる物やっていうのだけとって、散らかさないようにしないといけないんや。あとは、向こうの清掃屋がな、バケツみたいなもので、ブーっと持っていきよる。」**（Case 13）**

第 5 章

求職活動

5.1　求職活動の有無

では、現在何らかの形で求職活動をしていますか、という質問に対して約 45 %の野宿生活者が求職活動を行っていると答えた（表 5.1）。

項目	人数	比率 1	比率 2
求職活動をしている	22	44.0 %	44.9 %
求職活動をしていない	27	54.0 %	55.1 %
有効回答者数	49	98.0 %	100.0 %
不明	1	2.0 %	
合計	50	100.0 %	

表 5.1: 求職活動の有無

現在、廃品回収などに従事することによりわずかな収入を得て何とか生活しているというような厳しい状況に置かれているにもかかわらず、なぜ他の仕事を探さないのだろうかという疑問が生じるかもしれない。

以下、求職活動をしない（できない）理由を事例を用いて見ていくことにする。

5.2　求職活動をしない（できない）理由

現在求職活動をしていない 27 名について、求職活動をしない（できない）理由をみてみると、以下の 6 つをあげることができる。

■病気・体力

「仕事いうてもわし片足ないからな。目も片方見えへん。片目つぶったら暗くてにいちゃんの顔なんかわからん」。

糖尿が悪化し、足がしびれ、片方の足がどんどん黒くなっていった。どうにもならなくなり、2000 年の 3 月頃に A 市民病院に入院し、壊死した足ともう片方の足の親指を切断した。現在は義足をつけている。**（Case 48）**

1996 年（56 歳）以降は、釜ヶ崎に仕事を探しには行っていない。身体が弱っていて、とても働けないし、仕事に就くこともできない。「仕事行って、アオカンしてって繰り返している人もいるけどね。歳とってても、仕事行ってる人は行ってる。世渡り上手いうのかなあ。身体、内臓のいい人はね」。**（Case 6）**

■仕事がないから

探して無いなあ。だってもう 64 やで。探したって絶対仕事ないの分かってるもん。…腕やって若いモンには絶対負けんいう自信もあるしなあ。でも 64 のワシと 40 歳くらいの子どもとおったらどっち雇う。そらやっぱり若かったら体力だって違うしなあ。ワシが雇う方でも 40 歳の子雇うで。**（Case 47）**

別の仕事を探すことはしない。周りの噂や、公園にテントが増えていることから考えて、仕事はないだろうと思っているからだ。だから余計な体力を使ってまで仕事を探しに行かないという。**（Case 1）**

■今の生活で手一杯

A 氏にはもう一度自分の店を持ちたいという夢がある。その実現のために、早く野宿から抜け出して仕事に就いてお金を貯めたいと思っている。しかし、生きていくためにアルミ缶を集め、自炊をし、生活している現在、求職活動をする余裕はない。「野宿してからは職安にも行ったことないねえ。もう今日明日どうやって生きていこうかっていうことで精一杯やからね」。**（Case 21）**

■求職意欲減退　野宿期間が長くなればなるほど、（当然）就労意欲は減退していく。

「去年くらいまでは探しに行ってた。でも、朝 4 時くらいに起きて、釜ヶ崎の方に行って 5 時か。それから探してももうだめや。アブレるの分かってるからもう行かない。」**（Case 8）**

■面倒をみる

同居している友人は今は寝たきりとなっており、氏はその人の面倒も見ている。公園にきてからの収入はアルミ缶集めである。…1 月 5 日に「仕事があるんやけど」と近所の人が声をかけてきてくれた。1 日 9000 円の防水の仕事で、この辺の仲間うちでは氏だけが行った。3 週間ほど働いたところで寝たきりの同居人の具合が悪くなり、面倒を見るためにしばらく休んだら「もう（仕事に来てくれなくて）結構です」ということになってしまった。それ以後は世話が大変であまり時間がとれず、前ほど缶を集められていないようである。**（Case 32）**

仕事は探す気はありません。仕事を探すんだったら（事故で後足をなくした）犬がいるからね。**（Case 14）**

■借金

就労ニーズについて聞いてもほとんど「そりゃできりゃええけど、無理や、絶対無理や」との返答が主だった。それも A 氏の抱えている借金が影響している。借金がどうにかならなければ何をしても無理だという。**（Case 45）**

5.3　求職活動の手段

では、現在、限られた社会資源しか活用できないような状況で、どのような手段を用いているのだろうか。以下 5 つの項目について、事例を紹介する。

■西成労働福祉センター

「最近はセンターに仕事探しにいってるの？」
「掃除（特別清掃事業）の番号だけかな。土工とかの仕事とかにも就きたいとは思っているけど、年齢でだめだから、今はあきらめている。それに年が年だから、あまりきつい仕事には行けないし。」**（Case 7）**

現在、西成労働福祉センターや人夫出しを通じて仕事を探している。しかし、西成労働福祉センターは「100 %ない。まあひやかしに行ってるようなもんやなあ」。新聞の求人広告などで仕事を探して就いたことも以前はあったが、求人広告などは年齢制限がきついので現在は見ていない。**（Case 38）**

■職業安定所

仕事は職安や新聞などで探しているが、職安にいっても求人は平均 40 代までで就ける仕事はない。「行政はおもてむきはいいこという」。（でも仕事ないし、どうにもできないのとちがうかな。）**（Case 26）**

「仕事どこで探しはったんですか？」
「阿倍野のハローワーク。でも仕事なかったな。」
「どういう理由であかんかったんですかね。」
「アパートに住んでいないから、連絡先がないとだめとか、保証人がいないからだめとかやな。今は探しに行ってないけど。」**（Case 37）**

■新聞・雑誌

基本的には読売新聞やスポーツ新聞や広告の求人欄で仕事を探しているが、野宿をしているときに仕事をみつけてスーツを着てきれいな格好で面接にいったが野宿をしていることがわかると態度が変わり、イメージが悪いからダメだと言われた。この人はそこで「勤めたらどっかに住む」といったが不採用だった。**（Case 3）**

■知り合い

「昔一緒に基礎（工事）やってたやつに頼んでいるけど、あかんな。」**（Case 24）**

■直接雇用主に

現在も仕事を探している。しかし「新聞なんか買うてないしなぁ、たまに新聞が捨ててあるじゃない。それ見ても、まあ無いよ。どれもこれも『45 歳まで』とかね。それで、街を自転車で廻るんよ。

ぐるぐると。でもなかなかないね。直接行って住み込みを希望しても、『二人はだめ、一人ならええけど』って断られる。これ（奥さん）がおらんくてわし一人ならどうとでもやっていけるんやけどな。でもこれを放っぽっていくわけにはいかんしな。一人で野宿さすわけには . . .」。**（Case 40）**

「そっか。で、全然求職活動とかは行ってはらへんの？」

「行ってる。去年年末にそこの運送会社に配送のアルバイトさせてほしいって言いにいった。でも居住地がないからだめって言われた。」**（Case 43）**

第 IV 部

就労ニーズ

第 6 章

就労ニーズ

6.1　希望の仕事

本章では、今回聞き取り調査に協力してくれた野宿生活者に、「何かつきたい仕事、希望の職種などはありますか。具体的にどのような職種を希望されていますか。」という質問をして得られた、希望の仕事について見ていくことにする。

6.1.1　希望の職種

表 6.1 は希望の職種について分類したものである[注1]。最も多かったのは、生産工程・労務の職業、つまり野宿生活者が今まで就いてきた、製造業や建設業関係の仕事に対する要望が高くなっている。

希望の職種	人数	比率 1	比率 2
専門・技術的職業	2	4.3 %	5.4 %
サービスの職業	3	6.5 %	8.1 %
保安の職業	4	8.7 %	10.8 %
運輸・通信の職業	4	8.7 %	10.8 %
生産工程・労務の職業	18	39.1 %	**48.6 %**
その他	5	10.9 %	13.5 %
何でもよい	3	6.5 %	8.1 %
選択者総数	39	84.8 %	105.4 %
有効回答者数	37	80.4 %	100.0 %
無回答	9	19.6 %	
合計	46	100.0 %	

表 6.1: 希望の職種

6.1.2　希望の就業形態

表 6.2 はどのような就業形態（常雇い・臨時・日雇）を希望するかについて集計した結果である[注2]。希望の就業形態で目立って割合が高いのは、「常雇い」で 6 割を占めている。

注1 ここで母数が 46 名になっているのは、4 名「（現在の仕事以外に）他の仕事につきたくない」と答えたものを除いたためである。「他の仕事に就きたくない」と答えて理由は後で触れる。また、ここで職種とは言えないかもしれないが、「その他」に分類されているものは、高齢者対象の軽作業、体力にあった仕事を希望の仕事などがあげられる

注2 希望の職種と同様、母数が 46 名になっているのは、4 名「（現在の仕事以外に）他の仕事につきたくない」と答えたものを除いたためである。

希望の就労形態	人数	比率 1	比率 2
常雇い	21	45.7 %	**60.0 %**
臨時	8	17.4 %	22.9 %
日雇	8	17.4 %	22.9 %
選択者総数	37	80.4 %	105.7 %
有効回答者数	35	76.1 %	100.0 %
無回答	11	23.9 %	
合計	46	100.0 %	

表 6.2: 希望の就業形態

6.1.3 希望の収入

次に「**最低**どのくらいの収入が必要だと思いますか」という質問に対して、希望の就業形態で常雇いを選択している人は月給 10 万円から 25 万円で、平均 16 万 6 千円、また、臨時を選んでいる人は月給 8 万円から 10 万円で、平均 9 万 6 千円、日雇を選んでいる人は日給 6 千円から 1 万 3500 円で平均 1 万円という結果が得られた。

6.1.4 具体的に

以上、「希望の職種」、「希望の就業形態」、「希望の収入」につて見てきたが、それを聞き取り調査メモから、いくつか具体的な事例を紹介する。

■自分の技能・技術を活かしたい

希望の職種は昔自分が専門にしていた仮枠（家の基礎）大工である。当時は本を読んだり、積極的に親方に聞いたりして勉強したので図面も読める。10 年かけて一人前になった仕事であるため、資格はないが、「腕を見てもらえれば」と自信ありげである。そういった仕事がなければなんでもいいが、警備のようにじっとしている仕事は嫌で、働いている実感のある体を動かす仕事の方がいい。常雇いとは言わないが、パートのようなもので月 10 万貰えたら十分である。**（Case 19）**

もしつぎあたらしい仕事に就けるのなら昔身につけた印刷をもう一度したい。56 歳だから体に負担がかからない程度で。賃金は家賃などの生活費を考慮にいれると最低 20 万円はいるだろう。**（Case 26）**

仕事の希望は、自立支援センターへの入所手続きをしようと考えているものの、今後も釜ヶ崎の日雇いを続けたいと考えている。賃金はやはり最低でも定められた 13500 円はほしい。現在の賃金はおかしい。**（Case 34）**

フォークリフトの免許があるので、土方は嫌だがフォークリフトなら暖かくなったら（4 月くらいから）やりたい気持ちもある。ダンプはこの耳では危ないが、フォークリフトならいけそうだからだ。場所は西成でもどこでもいい。できれば常雇いで月 10 万は欲しいところである。また、最初は前貸しをさせてもらうことが望ましい。行政に望むのは仕事の紹介と身元の保証である。「電話も家もなかったら（企業は）雇ってくれないんじゃないですかね」という不安があるからである。**（Case 18）**

以上の四つの事例のように、今まで就いてきた仕事の経験を何とか活かせる仕事に就きたいという声は多かった。

■体力にあった仕事

「…生活保護をもう一度受けたいな。…生活保護を受けたからといってじっと家にいるんじゃなくて、仕事も探しに行きたいからな。」
「どんな仕事につきたいですか？」
「そうやな、年も年やから仕事ないかもしれないけど、体に無茶苦茶負担がかからないような仕事を探したいな。掃除みたいなものがええな。長時間じゃなくてな。」
「やっぱり、体えらいから、体力にあった仕事がいいですか。」
「そうやね。」
「給料が高いとかよりも。」
「そうやな。」**（Case 30）**

土工として働きに行って体がいうことをきかないことを実感したことも関係しているのか、就きたい仕事は体に負担のかからない軽作業とのことである。常雇で働きたいと考えている。「もう 60 歳のおじちゃんやで」。具体的に挙げるなら可能性も考えてガードマンとのことであった。月給は 20 万円あればとのことであったが、「月 15 万あったらドヤ泊まって三食買って食べてもワシ絶対生活していけるからなあ、月 15 あったら」とも語っている。**（Case 38）**

上の二つは、高齢になり、今までやってきた仕事はできないかもしれないが、何か仕事をしたいという希望を持っている事例である。「6.2 希望の就業形態」で、希望の就業形態として「臨時・日雇」と答えた人の中には、**安定した**「常雇い」で働きたいが体力がもたないから、「常雇い」より少ない時間で働ける「臨時・日雇」と答えている人も少なくない。

■みんなで仕事を分け合う

「今の仕事が一日 2800 円で六日に一回。それを三日に一回にまわせたらな。わしにしても基本的には人から面倒見られるのはいやな質や。でも行政も『支援』言うて取りかかるんやったらしっかりしたことをせな。今はそんな姿勢は見れないよ。もっと大局的に、大きい見方でやらなあかんよ。人数も多いんやから、（賃金も労働時間も）少なくてもそのみんなに仕事が廻るように、大阪市の抱えている仕事を活用しなければいかん。いくら景気が悪いと言うても行政に全く仕事がないわけじゃないだろ。……例えば今一人 8 時間している仕事があるなら、それを 4 時間ずつに分けたら二人が仕事に就けるやろ。…みんなで分けあって。それにいくら仕事あっせんしても、しっかりお金貯められるようなサポートがなくちゃだめだ。生活保護にしてもその後までサポートがないと。周旋屋が金取ったりあるしな。打ち切られてまたテントへ戻るんじゃ意味ないやろ。ちゃんと人の事情をみてそれに合うようにしなくては」。…行政が抱えている軽作業をみんなに回るように出して欲しいとのことだ。**（Case 42）**

今までのように、自分が希望する仕事というよりは、現在これだけ増加している野宿生活者全体という視点から、希望の仕事を答えている事例である。これ以外にも、労働者として現在の状況を何とかしたいと考えている事例を一つ紹介しておく。

今の仕事は 1 万 5 千円くらいの仕事をしている。とびのピーク時は 4 万円単価だった。単価を下げているのは、今働いている奴らや。アオカンしている人が働くから、そんな桁落ちの飯場がなくならへんのや。仕事にみんな行かんかったら、単価はあがる。もうアオカンしてるねんから、半年位我慢したらええんや。ストライキや。**（Case 16）**

6.2　他の仕事には

今回聞き取りをしたうち、4 人から「何かつきたい仕事がありますか」という質問に対して、「他の仕事につきたいと思わない」という答えを得た。現在野宿生活を送っているのになぜ、という疑問が生じているかもしれない。その答えを考えるために、具体的にそれらの事例を以下で見ていくことにする。

■生活保護を受けたい

> あと 2 年待って 65 歳になったら、生活保護の相談に行くつもりである。相談はするが、それでどうにかなるかについては自分でも分からないという。とにかく、仕事はもはやする気がないので行政に対しても特に要望はない。**（Case 12）**

4 人のうち 2 人は、高齢ということもあり、生活保護を受けられるまで何とかしのげればという理由で、就労に対する要望がなかった。

■借金がなくならない限り

> 就労ニーズについて聞いてもほとんど「そりゃできりゃええけど、無理や、絶対無理や」との返答が主だった。それも A 氏の抱えている借金が影響している。借金がどうにかならなければ何をしても無理だという。**（Case 12）**

借金がなくならない限りは、借金取りが取り立てにくるので仕事に就くことはできない。

■厭世的

> 貯金が多くあったため、野宿をしてから働いたことがない。貯金はそろそろ尽きるのであるが、「長生きしても仕方ない」と、先のことは考えていなく、どんな仕事でも働く気は全くない。ただお金が無くなったらまた四国へ遍路にでようかという思いはある。般若信教の影響か、「のたれ死ぬ覚悟はできてる」「四国で終わりにしたい」「四国で死ねたら一番いい」「人間は何処でどう死んでもいい」「人間は死ぬときは死ぬ」といったような厭世的なことをやたら口にするのである。

上の事例は、現在の場所で野宿する前に、自転車で四国 88 ヶ所（しかも 2 周半）を、1 日 2500 円の野宿生活でお遍路していた。その時人生について色々考え、就労ニーズについて「どんな仕事でも働く気は全くない」という回答を得ている。

6.3　行政にのぞむこと

それでは、先に述べたような希望の仕事に就くためには、行政にどのようなことを望むのか以下で見ていく。

図 6.1 は、行政に何らかの要望を持っている 40 人の傾向を見たものである。行政に対して最も望んでいることは「職業紹介」であることが分かる。また、一人当たり幾つの選択肢を選択したかをみてみると、2.4 と、一つだけの項目を行政にのぞむのではなく、複合的な支援を望んでいることが分かる。

以下、それぞれの項目について具体的に見ていくことにする。

6.3.1　職業紹介

職業紹介を希望する事例を以下で一つ紹介するが、「行政に希望することは？」という質問に対して「仕事」と第一に答えている事例が多かった。

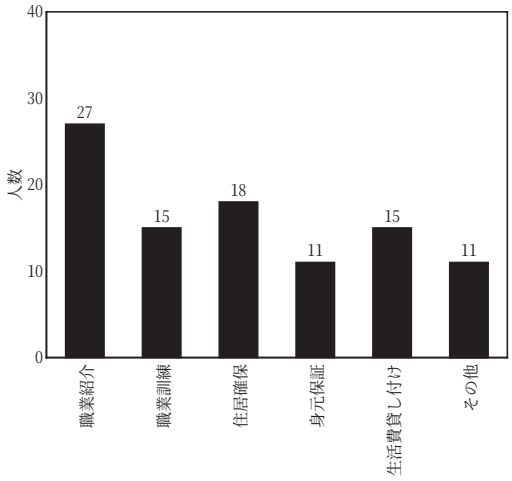

図 6.1: 行政に望むこと

行政に望むのは仕事の紹介と身元の保証である。「電話も家もなかったら（企業は）雇ってくれないんじゃないですかね」という不安があるからである。**（Case 18）**

6.3.2　職業訓練

「新たな職業につくために、職業訓練を受けますか」という質問に対して得られた結果が図 6.2 である。「希望する」と答えた人の割合に対して「希望しない」と答えている人の数が多い。

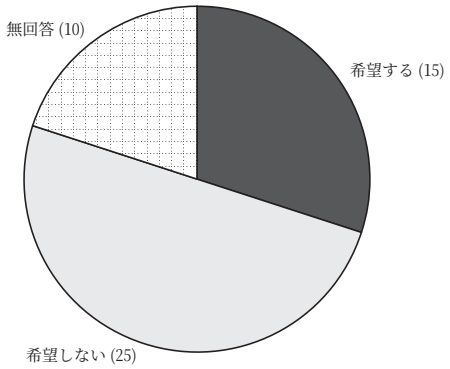

図 6.2: 職業訓練

職業訓練に対してどのように考えているのか、典型的な事例を以下二つ紹介する。一つ目は「職業訓練を希望する」事例で、二つ目は「職業訓練を希望しない」事例である。

「もし、職業訓練を受けますかっていったら？」
「そら、仕事に就けるんやったら、訓練うけるで。わしかってやらなあかんことはやるで。」**（Case 43）**

「とにかく仕事がないのが問題なんやで。」
「そうか。で、仕事につくために行政にのぞむことは？」
「そら、仕事を紹介してくれることやろ。」
「職業訓練とか、住むところとか、身元保証とか、ありませんか？」

「仕事がなかったら、どれとっても話にならんやろ。仕事がないのに、そんなことしてくれても、すぐまた野宿やで。だって生きていかれへんもんな。そう思うやろ。」

「そうやね。」

「そもそも仕事紹介してくれるんかな？」**（Case 24）**

○職業訓練を希望しない理由

では、「なぜ」職業訓練を希望しないのか。

職業訓練を希望していない理由として、以下の 3 つ（「すでに何らかの技術・技能をもっている」、「年齢」、「資格をとっても」）をあげることができる。

■技術・技能を持っている

「自分はなんでもできるからいいが、できないひととかやったら職業訓練もいいかもなぁ」**（Case 9）**

では、実際どれだけの人が仕事に役立つ技能・技術を持っているのだろうか。そして具体的にはどのような内容のものなのだろうか。

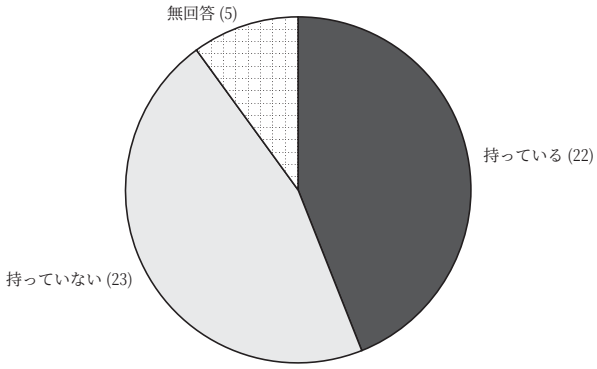

図 6.3: 技能・技術

図 6.3 を見ると、仕事に役立つような特別の技術・技能を持っていると答えた人と、持っていないと答えて人はほぼ同数であった。

また、どのような技術・技能を持っているのかと具体的に見ていくと、普通・大型・特殊・二種免許など車関係のもの、フォークリフト、玉掛けなどの建設業関係のもの、それ以外にも、金属溶接、アーク溶接、旋盤の免許、調理師免許、印刷関係の技能、クリーニング関係の技能を持っているという回答もあった。

以上、技術・技能について見てきたが、一つ付け足して置かなければならないのは、現在、技術・技能を持っていても、新しく職業訓練を受けたいと答えている人がいるということである。

■年齢　次に年齢のことを考えて希望しない事例を二つ紹介する。

「なんか、職業訓練とか受けたいと思います？」

「職業訓練受けても同じやろう思う。60 やったらな。現実で現場で『どんなに仕事やったんや』って聞かれたら、『まだ、やってない。』って。技術持ってても、持ってないのと一緒や。職業訓練身に付けたからっていって、仕事がなかったらな。50 歳くらいやったらまだなんとかできるかもしれないけど、60 歳やったら、『もうええよ』ってな。どんなに技術があってもな。」**（Case 13）**

仕事に就くために行政に望むのは、「仕事の紹介」「住居の確保」「身元の保証」「生活費の貸与」。職業訓練を受ける気はない。「だってもうこんな歳で今更何訓練するのよ。もっと若かったらやろうかなあと思うかも分からんけど、この歳なるとなあ」。**（Case 38）**

■職業訓練を受けても　次に、「職業訓練を受けますか」という質問に対して、具体的にどのような技術・技能を身に付けることができるのか、具体性に欠けていること、また資格を取った後仕事があるのかどうかという先の見通しの甘さについての指摘などをする事例もあった。

職業訓練については「ワープロやパソコンとかあってもね、自分にあうものがもしあれば考えるけど」。**（Case 42）**

「で、新たな仕事に就くために職業訓練受けますかってどう？」
「仕事がないのに、訓練しても仕方がないやろ。仕事があって、この資格取ったら必ず仕事につけるっていうんやったら、話はべつやけどな。」**（Case 24）**

「職業訓練とか自立支援何とかというの、役人の連中が言うてたけど、そんなんはねえ。他の人と一緒におらないかんからというわけではないけどね。入りたくないね。特別な技術や技能なんてないけど、今までこれでやってきたんやから。そんなんせんでもええから、仕事増やさないとね。やっぱり不景気なんは、行政が悪いんと違う。何望むっていうたらやっぱり仕事増やして欲しいっていうことやね。職業訓練とかいらんから仕事増やしてって。今までそれでやってきたんやから。 ...仕事ないならそんなのはいらんよ」。**（Case 10）**

6.3.3　住居確保・身元保証・生活費貸し付け

仕事に就くために行政に望むこととして、「住居確保」、「身元保証」、「生活費貸し付け」を選択した事例をみてみると、この 3 つの項目のいずれかだけを選択しているケースは少なかった。「職業紹介」と一緒に選択している場合が大半であった。

「このまえも仕事あったんやけどな。」
「そこの A 公園の草抜き」
「でも住むとこないからあかんかった」**（Case 2）**

仕事についての要望を聞くと仕事は探せばある。でも部屋を借りようと思っても給料は月末にしかでないから部屋を借りても生活費もないし、家賃を払えない。かといって野宿では就職できない。**（Case 4）**

行政に対するニーズは「そりゃ、出来ればいいけど、現実難しいな」。...住居についても難しいだろうが希望ではあるという。身元の保証は「確かに仕事に就くときに保証は欲しいけれども、行政がすることで、かえって雇ってくれないんじゃなか。大きな企業なら特に。そこで差別が発生するんじゃないか。ここにいることを向こう（雇い手）が知ればなかなか難しいやろう」。**（Case 42）**

6.3.4　提案

行政に望むことの中には、野宿生活者自身から様々な提案があった。以下具体的な事例を紹介する。

氏がひとつ、強く望むことは、何らかの職業紹介の組織を作って欲しいということである。**（Case 32）**

上の事例を見て、職業安定所があるのにと思う人がいるかもしれない。

だが彼の言葉の中には、既存の職業紹介所から、「住居がない」、「身元保証人がいない」など様々な理由で排除されてている、その結果、労働市場に戻ることもできないという、野宿生活者が現在置かれている状況をも背景に含み込んでいると思われる。

以下にあげる二つの事例は、職業紹介に含まれるとは思う。しかし、特に、個人の状況にあった仕事を紹介してほしいとい声が強かったので、あえて抜き出した。

「仕事について就労自立するために行政に何を望みますか？」

「行政に対しては感謝している。...シェルターに入らせてもらっているし。確かに今の生活は最低だと思うよ。高齢者でもできるような仕事をもっと増やして欲しいとか、いろいろ思うところはある。言い出したらきりがないと思う。...」**（Case 37）**

「でも、もし、寝ているところを役人さんがまわって仕事を紹介してくれるんだったら、建築の仕事に限らなくてもいいと思う。もちろん建築の仕事もあると思うんだけど。でも年齢が年齢だから、体力的にね...。でも日雇だったら自分の体力にあわせていけるからいいと思う。釜ヶ崎に行ったら仕事につけるような状況にしてほしい。」**（Case 7）**

6.4　年金

ここで一つ今回の調査から、何とか生活費を捻出というわけではもちろんないが、現在までどのような雇用状況の仕事に従事してきたかということを把握するために、年金を支払った経験があるかどうかについて調べたところ、有効回答者 30 人中 19 人が支払ったと回答している。この割合を高いか低いかという議論をするつもりはないが、有効回答者 30 人中 11 人は、一度も年金を支払ったことがないということになるのだ。

また、年金を支払っていたと回答した 19 人に対して、支払い期間を見てみると、5 年に満たない事例もあるが、20 年近く、もしくはそれ以上支払っている事例が多かった。

14 年間年金をかけていたので何とかおりないかと相談に役所へ行ったことがあるが、戸籍謄本がいるだの色々めんどくさかったので諦めた。戸籍謄本を手に入れるなら実家に帰らなければならないが、長年あっていない親兄弟には今さら会えない。よって実家には帰れないという。一時金は出ると言われたらしいが、「はした金集めて 2、3 ヶ月生きたところで仕方ない」と思ったのである。しかし、「まあ俺も人間だからいざとなったら（生きたくなって）どうするかわからねえけど」と付け加えた。**（Case 20）**

上の事例のように、一時金を受けたいのにどうしたらよいのかわからない、また、一時金を受ける権利があるにも関わらず、自分がその権利を持っていることさえ認識していない事例が多かった。

6.5　企業にのぞむこと

次に、仕事に就くために企業に何かを望んでいると回答した 35 人について分布を見てみる（図 6.4）。「年齢制限」をなくしてほしいという回答を選択している割合が高いことが分かる。また、一人当たりの選択数を見てみると、2.2 と行政よりは若干少なくなっているものの、企業に対しても複合的な支援を希望していることが分かる。

話を聞く際に、「行政にのぞむこと」、「企業にのぞむこと」と希望する先を分けてしまったが、具体例を見て頂ければ、企業にだけのぞむというよりは、行政の支援と同時に企業にのぞむことを語っている事例が多かったことが分かる。

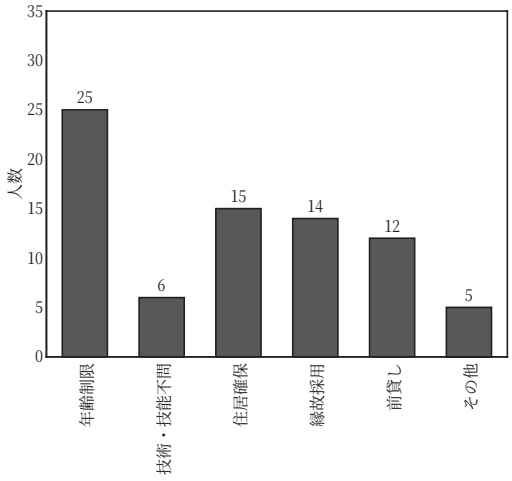

図 6.4: 企業に望むこと

6.5.1 年齢制限

企業に対して、多くが答えた「年齢制限をなくしてほしい」という要望は、今回話を聞かせてもらった野宿生活者が、野宿する前、野宿してから、求職活動にいったときに経験した不採用理由なのだろう。

以下具体的な事例を二つ紹介する。

> ホテルの清掃の仕事もいまでは年齢制限が厳しくなっているという。むかしはむしろ年寄りの仕事であったようで、清掃の仕事をやり始めたころ面接に行くと若いのにと言われたこともあるという。いまでは 50 歳未満でないと雇ってくれないという。ある時面接にいくと一人の募集に 50 人面接にきたという。若い人のあいだではまだまだ仕事があるようだが、年寄りのところにはないことをしきりに言っていた。
>
> ...行政には頼りたくないので仕事は自分で探す。企業にも望むことは年齢制限をなくしてほしいことと前貸ししてほしいことで住居は自分で探すということだった。**（Case 3）**

> 行政に望むことは、4〜5 千円でいいので最初の給料までの生活費を貸してくれること、企業に望むのは年齢の制限をなくしてくれることである。55 歳までという仕事は良く見受けられる。57 歳の氏くらいが最もつらい年齢であるということだ。**（Case 19）**

6.5.2 住居確保・縁故採用・前貸し・技術、技能不問

> 新聞で仕事を探しても年齢制限があり、また住み込みを希望して「二人連れはだめ」と断られるなど、どうしても新たな仕事に就けない。**（Case 40）**

上の事例は夫婦で野宿生活を余儀なくされている。よって、自分だけの生活だけではなく、奥さんと一緒に生活できる住居提供を希望している。

仕事に就くための行政に望むことは、仕事の紹介、住居の確保、給料が出るまでの生活費の貸し出しである。企業に望むのは年齢制限をなくし、住居の確保、給料の前貸しである。**（Case 27）**

上の事例のように、先ほど述べたが、行政にのぞむことと企業にのぞむことが重複している事例が多かった。

企業に対しては、年令制限をやめてほしい。技術・技能をとわないでほしい。顔付けに関しては仕方がないが、顔付けでいけるとこはなく、顔付けがなければと思っている。**（Case 34）**

6.6　農山村への移住

次に、今回の大阪府の調査でも提案されている新たな労働市場としての農村移住について考えていきたいと思う。図 6.5 は「新たに農山村へ移住し、就労・生活していくことが可能であれば行きたいと思いますか。」という質問に対して得られた答えを集計した結果である。

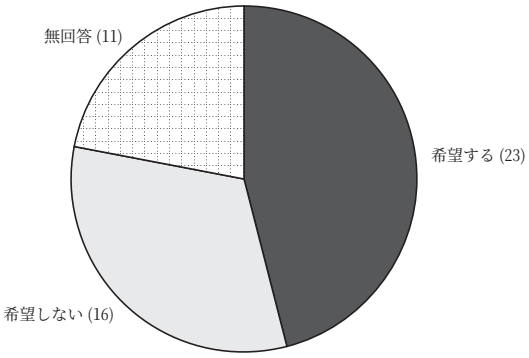

図 6.5: 農山村への移住

では、以下で農山村への移住を希望する事例と、希望しない事例をいくつか具体的紹介する。

6.6.1　農山村移住希望する

「もし、農村で、ちゃんと畑とか田圃とかがあって、生活が成り立つとしたら、農村に行ってもいいと思いますか？」

「行きたいと思うよ。」

「農業やったことありはるんですか？」

「あるよ。小さきときにやったな。育ての母親が小さな畑やってたのを手伝っていた。...」**（Case 37）**

上の事例は、過去に農業経験があるので、農山村移住を考えてもという事例である。

次は、地方（熊本県）出身で、田舎の生活を希望している事例である。

また新たに農山村に移って仕事をすることについては、「そりゃあ、できたらぜひしたいわ。田舎がええよ。都会は疲れるしね。若い時分は都会にあこがれたりしたけども、年とったら田舎で仕事しながらゆっくりしたいよ」。**（Case 40）**

6.6.2　農山村移住を希望しない

次は、大阪で生まれ育ち、農業の経験がないので、農山村の生活を希望しない事例である。

「もし、農山村で生活が確立されるとしたら、農業やってみようと思う？」
「いや、思わんな。農業は誰でもできるとは思わんな。わしみたいに大阪で生まれて、一度も農業をやったことないやつには、無理なんとちがうかな。」
「やっぱりそうかな。」
「そう思わんか？そんな農業もあまくないやろ。」**（Case 24）**

ただし、ここで一つ落とし穴がある。それは如何に生活を確立していくかということである。

農山村での就労については「農業なんてしたことないで。でも考えるよ。ちゃんとできるんやったら」。それで確実に生活していけるのならという話である。**（Case 45）**

上の事例のように、農業で確実に生活できるのかという不安は聞かれた。

実家は農家のようで地方で農業などをしますかと尋ねると、田舎に帰れば農業はできる、でも今農業じゃ生活をすることはできんと言っていた。昔は高く買ってくれたからちょっとつくっても生活できたけど今は米安くてたくさんつくってもお金にならないと言っていた。**（Case 23）**

また、過去に農業に従事していた人でも、かえって農業に従事していたからかもしれないが、農業で生活していくのは難しいのではということを話してくれた。

このように、生活を確立することへの困難さは、決して「農村移住」に限ったことではないと思われる。しかしながら、彼らがこのような不安を抱くのは、「経験がない」仕事をしなければならないからだけなのだろうか。不安を抱くその背後には、野宿生活者が低賃金（ときには無給）で都合の良い労働力として利用された、もしくは利用される可能性があるという問題を含んでいるからではないだろうか。
以下、釜ヶ崎から飯場に仕事に行って不当な条件で仕事をさせられている事例を紹介しておく。

仕事がでたといっても賃金はだいたい 1 万 1500 円。9000 円のところもあった。このあいだは 1 万円/日で飯代 3800 円、そのほか 3000 円とられて、一日 3200 円しかのこらないところがあった。
この日も姫路の高速道路の橋桁の工事に行ったものの残業が多く、朝出に残業をしても時間外がつかないのでてきたところだった。
最近は本当にひどい場所が増え、二級の印紙を貼るところもある。**（Case 34）**

先の「6.1 希望の仕事」でも述べたが、野宿生活者自身、決して安価な賃金で仕事に就くことを望んでいるわけではない。現在の仕事に就けない状況よりは、低賃金で働く方がマシなだけであって、決して望んではいないのだ。
就労自立するためには、農山村に行って農業研修を受けようと思うだろうが、それを悪用し低賃金（もしくは無給）で労働力を獲得する組織が生まれてきたときどう対処するか、そしてもし、実際農山村に行った後、何らかの理由で戻ってきたいと考えたとき、いつでも戻ってこれる（受け入れる）ことができるような施策が必要ではないだろうか。

6.7　就労自立のために～なぜ仕事につけないと思いますか～

ここでは、下の質問（部分アンケート）項目を見てもらいながら、「なぜ仕事につけないと思いますか。」という質問し、得られた回答の結果をみていく（表 6.3）。

野宿生活者自身が仕事につけない理由として、最も多かったのが「求人の年齢と自分の年齢とがあわない」、次いで、「身元保証できない[注3]」、「条件にこだわっていないがとにかく仕事がない」をあげている人が多かった。

また、選択総数を見ても分かるように、一人あたり約 3 つの理由をあげている。つまり、仕事に就けない理由を一つとは考えておらず、複合的な原因と思っているのではないだろうか。

仕事に就けない理由	人数	比率 1	比率 2
賃金・給料が希望とあわない	2	4.0 %	4.7 %
年齢があわない	33	66.0 %	76.7 %
希望する種類の仕事がない	11	22.0 %	25.6 %
免許・技術・技能を持っていない	8	16.0 %	18.6 %
自分の知識・技能を活かせない	6	12.0 %	14.0 %
身元保証できない	21	42.0 %	48.8 %
住民票不在	6	12.0 %	14.0 %
生活費がない	13	26.0 %	30.2 %
とにかくない	18	36.0 %	41.9 %
その他	6	12.0 %	14.0 %
選択総数	124	248.0 %	288.4 %
有効回答者数	43	86.0 %	100.0 %
無回答	7	14.0 %	
合計	50	100.0 %	

表 6.3: 仕事に就けない理由

では、次に具体的に聞き取りメモを見ていく。

■年齢　まずはじめに年齢を仕事に就けない理由としてあげている事例をみる。

> 野宿に至ってからもたまには職安で仕事を探したり、新聞広告などで仕事を探している。しかし、見つからない。「やっぱり鉄工関係のね仕事したいねんけどね、年齢見たら 40 歳までとか 45 歳までとかでね、ないねえ。 ...」
>
> 行政には仕事のあっせん、住居の確保を希望している。また生活保護についても仕事が見つかるまで利用できるならと話していた。特別清掃の話を切り出そうとしたが、「それは年齢があかんでしょ。何か中途半端な（自分の）年齢なんよねぇ」と話し、年齢に関して企業のもうける年齢制限などに対する不満も話していた。**（Case 33）**

今回聞き取りをした野宿生活者の大半が、仕事につけない理由として「年齢」をあげていた。今回の調査協力者の平均年齢が 56 歳であることを考慮するなら当然の結果なのかもしれない。

■とにかく仕事がない

> 「とにかくいまは不景気で仕事がないので仕事がでるまで待ってる」
>
> 行政にはとにかく仕事を斡旋してほしいとのことだった。いい仕事（ピンハネとかされない仕事）がほしい。**（Case 9）**

注3 住居がない・連絡先がない・身元保証人がいない

「なんで仕事につけないと思います？」

「そら、仕事がないからやろ。とにかく仕事がないもんな。確かに、年も問題やけどな、それ以上に仕事がないわ。」

「他に、野宿してはって、住所とか連絡先がないから、仕事につけないとか？」

「いや、それはちがうと思うで。紹介してもらう仕事があってからの話とちがうか？紹介してもらう仕事もないような状況で、どうしろっていうんや。そう思わんか。原因は、仕事がないことが一番や。紹介してくれる仕事があって、その次に、年齢、そして賃金の問題があると思うけど。ちゃうかな。」

「紹介してもらえる仕事がないのは、住所がないせいではないの？」

「いや、ちがうは。とにかく仕事がないのが問題なんやで。」

「そうか。で、仕事につくために行政にのぞむことは？」

「そら、仕事を紹介してくれることやろ。」

「職業訓練とか、住むところとか、身元保証とか、ありませんか？」

「仕事がなかったら、どれとっても話にならんやろ。仕事がないのに、そんなことしてくれても、すぐまた野宿やで。だって生きていかれへんもんな。そう思うやろ。」**（Case 25）**

上の二つの事例のように、「とにかく仕事がない」のが、現在仕事につけない理由としてあげている事例もあった。

■希望の仕事

コンピューターの会社で長年働いていたが、資格や免許などはない。何よりコンピューターが使えるといっても、そのような仕事の求人は若い人ばかりで 50 歳を超えた自分のような者は雇ってくれないと言う。「コンピューターのことやったらよう知ってるけれども、まあ免許は持ってないよね。資格とかもないっていうことにしとこか。パソコンでも何でもたたけるんですよねっていうても、年齢がねってなるんですよ」。**（Case 21）**

「希望の仕事」というのは、上の事例のように、自分が現在持っている知識や技能（上の事例ではコンピュータに関する知識）をいかせる仕事とほぼ同じなのかもしれない。

■複合的な理由

「まあ、求人と自分の年齢とがあわないっていうのが一番やな。住居がないのでっていうのも大きいかなあ。身元を保証できないっていうんとはちゃうかもしれへんけど、ドヤなんか住んどっても、あれは住居じゃないからな。呼び出し電話もしてもらえるけど夕方くらいまでやからなあ。ガードマンとかって『明日行けるか』とか急に入るから連絡すぐつけられんと仕事取れんわけよ」。**（Case 38）**

「へんな質問なんやけど、なんで仕事につけないと思います？」

「まず年齢やな。経験があってもあかんねんな。それにかえって、経験があるから賃金が高くなるってことで、敬遠されてるのもあると思うで。それと、家がないってことや。連絡先がないのと身元保証できへんのと。当然身元保証人なんておらんもんな。」**（Case 43）**

ほとんどの事例が、上に示したように、年齢と身元保証など複数の理由を選択していた。

以上、「なぜ仕事につけないか」という質問に対して得られた答えをみてきた。ここで、野宿生活者自身が仕事につけない理由として語ったことは、行政や企業に対する要望と対応しているということが分かって頂

けたろうか。具体的には、仕事につけない理由として「とにかく仕事がない」と答えている人は、行政に対して「職業紹介」を望み、仕事に就けない理由として「年齢」をあげている人は、企業に対して「年齢制限」をなくすことを望んでいるということだ。

以上、本章では様々な角度から、野宿生活者が就労自立を目指すために、どのような施策を実施することが望ましいのかということを見てきた。

第Ⅴ部

資料編

聞き取り調査調査票

日時　（　　）年（　　）月（　　）日　午前・午後（　　：　　～　　：　　）実施
調査者（　　・　　）

〈フェイスシート〉

0　性別　　1.男　　2.女

1　おいくつになられますか。　　西暦（　　）年（　　）月（　　）日→（　　）歳

2　お生まれはどちらですか（出身都道府県）。　（　　）

3　最後に出られた学校はどちらですか。
　1.尋常小学校　2.高等小学校　3.国民学校初等科　4.国民学校高等科　5.旧制中学校
　6.新制中学校　7.高等学校　8.専門学校　9.高等専門学校　10.短期大学
　11.大学　12.その他（　　）
→出身校のある都道府県（　　）
＊備考〔中退など〕（　　）

4　住民票はどこにありますか。
1.大阪市内　2.大阪市外→都道府県（　　）　3.不明

〈テント野宿者層／非テント野宿者層の判断〉

5　テントで生活していらっしゃるのですか。
1.はい　2.いいえ

〈野宿に関する質問〉
6　どこで野宿していらっしゃるのですか。（注：テント野宿者、非テント野宿者両方にたずねる。）
野宿場所（　　）　*なるべく詳しく

〈野宿生活に関する質問〉
7　食事は主にどうされていますか。（一つ選択）
　1.炊き出しの利用→炊き出し場所（　　）
　2.自炊
　3.食堂で食べる／弁当を買う
　4.コンビニなどの廃棄食品をもらう　5.残飯
　6.仲間からわけてもらう
　7.その他（　　）

8　日用品（炊具・衣服・毛布など）や生活用品は主にどうされていますか。（一つ選択）

1.買う　2.粗大ゴミから調達する　3.仲間からもらう

4.市民やボランティアの人たちからもらう

5.その他（　　）

〈野宿生活における労働状況〉

9　現在（聞き取り時点より約一ヶ月間くらい）、何かお仕事（収入を得られる行為）をなさっておられますか。

1.はい　2.いいえ→　お仕事をなさらないのはどうしてですか。（　　）

それはどのような仕事ですか。（複数回答可）

1.廃品回収（　　）日

回収品目：

〔1.ダンボール、2.アルミ缶、3.雑誌・新聞、4.銅線、5.粗大ゴミ、6.その他（　　）〕

2.日雇仕事（仕事内容：　　）（　　）日

3.特別清掃（　　）日

4.その他（仕事内容：　　）（　　）日

その仕事で 1 カ月いくらぐらい稼ぐことができますか。

およそ（　　）円くらい

10　何かつきたい仕事、希望の職種などはありますか。（複数選択）

1.何でもいいから仕事につきたい

2.自分の技術／技能を生かせる仕事につきたい

3.体に負担のかからない軽作業につきたい

4.安定した仕事（常雇い）につきたい

5.多少きつくても賃金の高い仕事につきたい

6.その他（　　）

7.他の仕事につきたいとは思わない

具体的にどのような職種を希望されていますか。

・就業形態（　一般正社員　・　パート（臨時）・　日雇　）

（月給：　　万円）（時給・日給　　円）

・希望する職業（具体的に：　　）

1.専門的・技術的職業　2.管理的職業　3.事務的職業　4.販売の職業

5.サービスの職業　6.保安の職業　7.農林漁業の職業　8.運輸・通信の職業

9.生産工程・労務の職業 10.なんでも良い

11　現在何か仕事を探していますか（具体的な求職活動の有無）。

1.探している

→どういう方法で探していますか。（複数選択）

1.西成労働福祉センターで探す　2.職業安定所で探す

3.民間の職業紹介所（派遣会社）などで探す　4.求人広告求人誌（新聞を含む）で探す

5.知り合いを通じて雇用主に頼む　6.直接雇用主に頼む

7.その他（　　）

2.探してはいない

→仕事を探していない理由は何ですか。（1 つ選択）

1.疾病や障害のために働くことができない。
2.年をとって体力的な衰えを感じているためにあきらめている。
3.手配師が声をかけてくれない。
4.仕事が少ないのであまり仕事につけない。
5.その他（　　）

12　仕事上でのあるいは仕事に役立つ何か特別な技術／技能をお持ちですか（資格、免許 etc.）。
1.ある→（具体的に：　　）　　2.ない

◎自動車免許（普通・大型・特殊）・自動二輪（原付・限定解除）
◎金属溶接・溶断関連技能資格（ボイラー溶接・ガス溶接・JIS 規格溶接技術者）
◎定置機関・建設機械運転関連技能資格（ボイラー技士・クレーン運転手・玉掛技能者）
◎電気作業関係（電気工事士）
◎建築工事関連技能資格（ 建築大工技能士・型枠施工技能士・鉄筋施工技能士
・鉄骨の組立て等作業主任者・とび技能士・足場の組立て等作業主任者・左官技能士）
◎整備・内装工事関連技能資格（配管技能士）
◎その他

13　なぜ仕事につけないと考えますか。（複数選択）※調査協力者本人に選択してもらう（別紙にて）

1.賃金・給料が希望とあわない　2.求人の年齢と自分の年齢とがあわない
3.希望する種類の仕事がない　4.免許・技術・技能を持っていない
5.自分の知識や技能をいかせる仕事がない
6.身元を保証できない（住居がない・連絡先がない・身元保証人がいない）
7.住民票不在
（戸籍のある場所不明・住民票のある場所不明・借金などの理由で住民票を移せない）
8.最初の給料をもらうまでの生活費がない
9.条件にこだわっていないがとにかく仕事がない
10.その他（具体的に：　　）

14　仕事に就くために行政に望むことは何ですか。（複数選択）
1.職業紹介　2.職業訓練　3.住居確保
4.身元保証　5.生活費貸し付け
6.その他（具体的に：　　）

15　新たな職業につくために、職業訓練を受けて技術／技能を身につけたいと思いますか。
1.はい　2.いいえ

16　仕事に就くために企業に望むことは何ですか。（複数選択可）
1.年齢制限をなくす　2.技術・技能を問わない　3.住居確保
4.顔付け（縁故採用）を辞めてほしい　5.前貸しをさせてほしい
6.その他（具体例：　　）

17　新たに農山村への移住し、就労・生活していくことが可能であれば行きたいと思いますか。
1.はい　　2.いいえ

18　現在年金を支払っている、もしくは受給していますか。

1.はい（受給している（月　　万円）・支払っている）　　2.いいえ
※備考（　　）
年金が全額自分の収入になっているかどうかを確認（借金の返済等にあているなど）

では、（受給されていない方に対して）年金をかけたことがありますか。
1.はい　　2.いいえ
（具体的な期間：　　年から　　年　合計　　年間）

〈野宿生活における病気やケガ〉

19　現在、どこか体の具合の悪いところはありますか。
1.はい　→　（具体的に：　　）　　2.いいえ

また、これまでに大きな病気やケガをしたことがありますか。
1.ある　→　それは完治しましたか。　1.はい　2.いいえ　　2.ない

（野宿歴）

20　野宿を始めたのはいつ頃ですか。（注：比較的長く野宿をするようになってから）
西暦（　　）年（　　）月頃

・その場所はどこですか。（　　）
・どのような形で野宿をしていましたか（テント・小屋掛けかそうでないか）。
（　　）

（野宿を始めるまでの生活）※最後の仕事を辞めてから野宿に至るまでの話をきく

21　野宿生活を始める直前はどこに住んでいましたか。
1.大阪市内　　2.大阪市外→都道府県（　　）

22　野宿生活を始める直前住んでいた（泊まって）いたお住まいはどのような形態ですか。（一つ選択）
1.持ち家（一戸建て・分譲マンション）
2.賃貸住宅（賃貸一戸建て・（公営・民間）賃貸アパート）
3.社宅　　4.寮　　5.簡易宿泊所（ドヤ）　　6.間借り　　7.その他（　　）

〈釜ヶ崎経験層／非釜ヶ崎経験層の判断〉

23　釜ヶ崎から仕事に行ったことがありますか。
1.はい　　2.いいえ

〈キャリア（仕事）〉

学校を出てからこれまでどのような仕事をなさってきたのかお聞かせ下さい。

24　学校を出て初めてのお仕事は何でしたか。

（1）仕事内容　　*職業分類表と産業分類表で分類できる程度で
（　　）

（2）従業上の地位（雇用形態）
1.自営　　2.家族従業者　　3.常雇　　4.日雇　　5.臨時　　6.季節雇用
7.パート・アルバイト　　8.その他（　　）

（3）経営規模　（　　）
1.1～4 人　　2.5～19 人　　3.20～299 人　　4.300 人以上　　5.官公庁

（4）労働条件
(a) 健康保険　　1.あり　　2.なし

（5）場所（勤務地のある都道府県）（　　）

（6）勤続年数（　　）年～（　　）年の（　　）年間

（7）仕事を辞めた理由
（具体的に：　　）
1.　人員整理・会社解散・倒産のため（非自発的）　2.　一時的・不安定な仕事だったから
3.　収入が少なかったから　4.　労働条件が悪かったから　5.　自分に向かない仕事だったから
6.　家族の就職・転職・転勤及び事業所の移転のため
7.　病気・高齢のため　8.　定年などのため

（8）退職した時に退職金をもらいましたか
1.　はい　　2.いいえ

（9）退職した時に失業保険（雇用保険）を受けることはできましたか
1.　はい　　2.いいえ

25　主に就いていた（最も長く続けられた）お仕事は何でしたか。

（1）仕事内容　　*職業分類表と産業分類表で分類できる程度で
（　　）

（2）従業上の地位（雇用形態）
1.自営　　2.家族従業者　　3.常雇　　4.日雇　　5.臨時　　6.季節雇用
7.パート・アルバイト　　8.その他（　　）

（3）経営規模　（　　）
1.1～4 人　　2.5～19 人　　3.20～299 人　　4.300 人以上　　5.官公庁

（4）労働条件
(a) 健康保険　　1.あり　　2.なし

（5）場所（勤務地のある都道府県）（　　）

（6）勤続年数（　　）年～（　　）年の（　　）年間

（7）仕事を辞めた理由
（具体的に：　　）
1.　人員整理・会社解散・倒産のため（非自発的）　2.　一時的・不安定な仕事だったから
3.　収入が少なかったから　4.　労働条件が悪かったから　5.　自分に向かない仕事だったから
6.　家族の就職・転職・転勤及び事業所の移転のため
7.　病気・高齢のため　8.　定年などのため

（8）退職した時に退職金をもらいましたか
1.　はい　　2.いいえ

（9）退職した時に失業保険（雇用保険）を受けることはできましたか
1.　はい　　2.いいえ

26　最後に就かれたお仕事は何でしたか。

（1）仕事内容　　*職業分類表と産業分類表で分類できる程度で
（　　）

（2）従業上の地位（雇用形態）
1.自営　　2.家族従業者　　3.常雇　　4.日雇　　5.臨時　　6.季節雇用
7.パート・アルバイト　　8.その他（　　）

（3）経営規模　（　　）
1.1～4 人　　2.5～19 人　　3.20～299 人　　4.300 人以上　　5.官公庁

（4）労働条件
(a) 健康保険　　1.あり　　2.なし

（5）場所（勤務地のある都道府県）（　　）

（6）勤続年数（　　）年～（　　）年の（　　）年間

（7）仕事を辞めた理由
（具体的に：　　）
1.　人員整理・会社解散・倒産のため（非自発的）　2.　一時的・不安定な仕事だったから
3.　収入が少なかったから　4.　労働条件が悪かったから　5.　自分に向かない仕事だったから
6.　家族の就職・転職・転勤及び事業所の移転のため
7.　病気・高齢のため　8.　定年などのため

（8）退職した時に退職金をもらいましたか
1.　はい　　2.いいえ

（9）退職した時に失業保険（雇用保険）を受けることはできましたか
1.　はい　　2.いいえ

Case 番号と属性

Case 番号	聞き取り場所（市レベル）	年齢	野宿形態	仕事の有無
1	大阪市	56	テント	仕事あり
2	大阪市	65	非テント	仕事あり
3	大阪市	57	テント	仕事あり
4	大阪市	50	テント	仕事あり
5	大阪市	51	テント	仕事あり
6	大阪市	60	非テント	仕事あり
7	大阪市	58	非テント	仕事あり
8	堺市	62	テント	仕事なし
9	堺市	40	テント	仕事あり
10	堺市	59	テント	仕事あり
11	大阪市	65	テント	仕事なし
12	大阪市	63	テント	仕事あり
13	大阪市	60	非テント	仕事なし
14	大阪市	53	非テント	仕事なし
15	大阪市	56	非テント	仕事なし
16	大阪市	54	非テント	仕事なし
17	大阪市	61	テント	仕事あり
18	大阪市	48	テント	仕事あり
19	大阪市	57	テント	仕事あり
20	大阪市	60	テント	仕事なし
21	大阪市	53	テント	仕事あり
22	大阪市	54	テント	仕事あり
23	大阪市	年齢不明	テント	仕事あり
24	大阪市	58	テント	仕事なし
25	大阪市	64	テント	仕事なし
26	大阪市	56	テント	仕事あり
27	大阪市	64	テント	仕事あり
28	大阪市	64	テント	仕事あり
29	大阪市	58	非テント	仕事あり
30	大阪市	69	非テント	仕事なし
31	大阪市	54	非テント	仕事あり
32	堺市	52	テント	仕事あり
33	堺市	49	テント	仕事あり
34	シェルター	43	シェルター	仕事あり
35	シェルター	35	シェルター	仕事あり
36	シェルター	65	シェルター	仕事あり
37	シェルター	61	シェルター	仕事あり
38	シェルター	60	シェルター	仕事あり
39	豊中市	年齢不明	非テント	仕事あり
40	豊中市	51	テント	仕事あり
41	豊中市	60	非テント	仕事あり
42	シェルター	63	シェルター	仕事あり
43	シェルター	51	シェルター	仕事あり
44	シェルター	54	シェルター	仕事あり
45	シェルター	59	シェルター	仕事あり
46	シェルター	49	シェルター	仕事あり
47	八尾市	64	テント	仕事あり
48	八尾市	52	テント	仕事なし
49	八尾市	60	テント	仕事あり
50	八尾市	年齢不明	テント	仕事あり

表 6.4: Case 番号と属性